

## 8 男女共同参画施策について

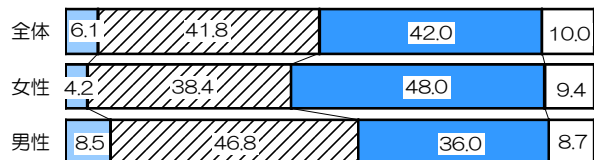
### 8-1 男女共同参画の言葉についての認知度

問37 あなたは次の言葉を知っていますか。(①～⑪の項目それぞれについて、1つだけに○印)

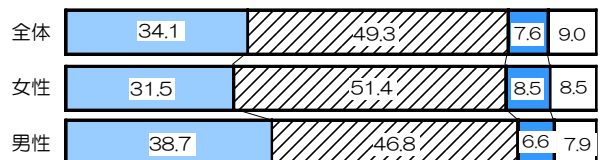
図8-1 男女共同参画の言葉についての認知度

全体 1,225件  
女性 667件  
男性 517件

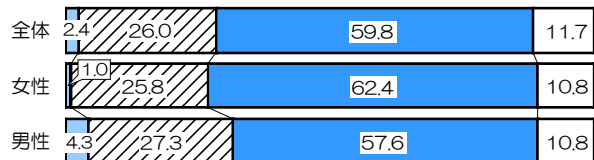
#### ①男女共同参画社会基本法



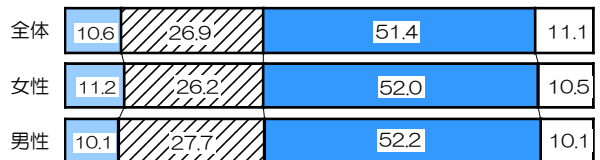
#### ②男女雇用機会均等法



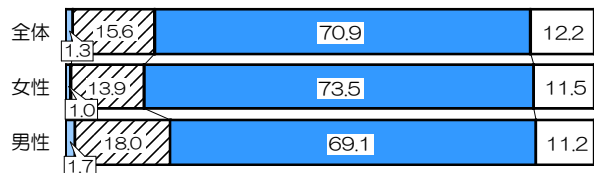
#### ③和歌山県男女共同参画推進条例



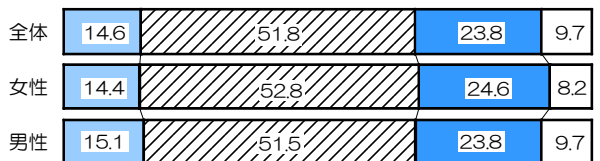
#### ④社会的性別（ジェンダー）



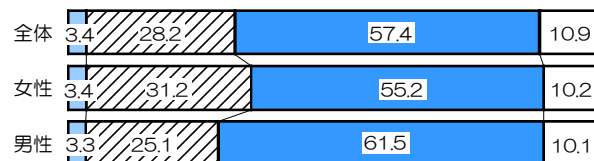
#### ⑤ポジティブ・アクション（積極的格差改善措置）



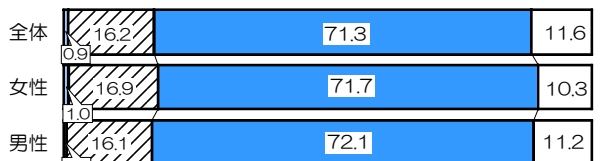
#### ⑥配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）



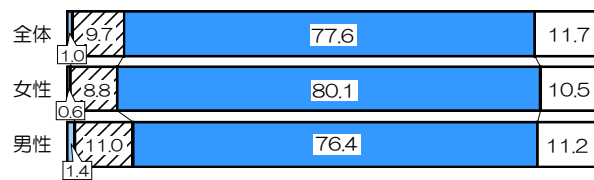
#### ⑦和歌山県男女共生社会推進センター「りいびる」



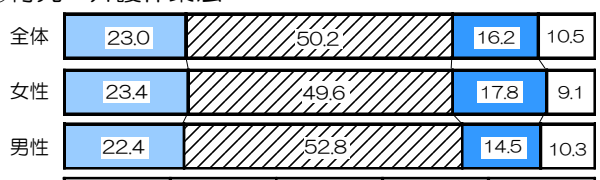
#### ⑧女性のチャレンジ支援



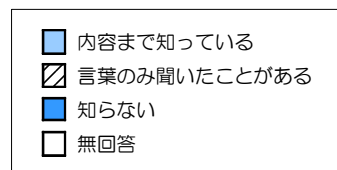
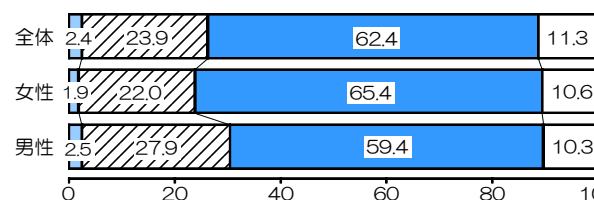
#### ⑨女性のエンパワーメント



#### ⑩育児・介護休業法



#### ⑪次世代育成支援対策推進法



## 《ポイント》

- 「男女雇用機会均等法」の認知度が8割以上、「育児・介護休業法」は7割以上、「DV防止法」は6割以上、といずれも男女を問わず認知度は高い。
- 「女性のエンパワーメント」は「知らない」が女性で8割以上と認知度は低くなっている。
- 「男女共同参画社会基本法」は男性の方が認知度は高い。

○女性では、「男女雇用機会均等法」、「社会的性別（ジェンダー）」、「DV防止法」に関しては若年層ほど認知度が高く、「男女共同参画社会基本法」では70歳以上を除いて、高齢層の方が高い。

(図8-1-1)

男女共同参画の言葉についての認知度について、「①男女共同参画社会基本法」では、全体で「内容まで知っている」という人は6.1%にとどまっているが、「言葉のみ聞いたことがある」を合わせた『認知度』は47.9%と半数近くになっている。性別にみると、「内容まで知っている」、「言葉のみ聞いたことがある」とともに男性の方が高く、『認知度』は12.7ポイント男性の方が高い。

「②男女雇用機会均等法」では、全体で「内容まで知っている」という人は34.1%と高く、『認知度』は83.4%となっている。性別にみると、「内容まで知っている」は男性の方が7.2ポイント高いが、「言葉のみ聞いたことがある」は女性で高く、『認知度』は僅差で男性の方が高い。

「③和歌山県男女共同参画推進条例」では、全体で「内容まで知っている」という人は2.4%と低く、『認知度』は28.4%と「知らない」(59.8%)を大きく下回っている。性別にみると、『認知度』は男性の方が4.8ポイント高くなっている。

「④社会的性別（ジェンダー）」では、全体で「内容まで知っている」という人は10.6%、『認知度』は37.5%となっている。性別にみると、いずれの項目も男女間に大きな差は見られないが、「内容まで知っている」は女性の方が若干高くなっている。

「⑤ポジティブ・アクション（積極的格差改善措置）」では、全体で『認知度』は16.9%と低く、「内容まで知っている」は1.3%にとどまっている。性別にみると、「内容まで知っている」、「言葉のみ聞いたことがある」とともに男性の方が高く、『認知度』の男女差は4.8ポイントとなっている。

「⑥配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）」では、全体で『認知度』は66.4%と高く、「言葉のみ聞いたことがある」は約半数となっている。性別にみると、『認知度』は女性の方が若干高いが、「内容まで知っている」は男性の方が高くなっている。

「⑦和歌山県男女共生社会推進センター「りいぶる」」では、全体で『認知度』は31.6%と低く、「知らない」(57.4%)を大きく下回っている。性別にみると、「内容まで知っている」、「言葉のみ聞いたことがある」とともに女性の方が高く、『認知度』は6.2ポイント女性の方が高い。

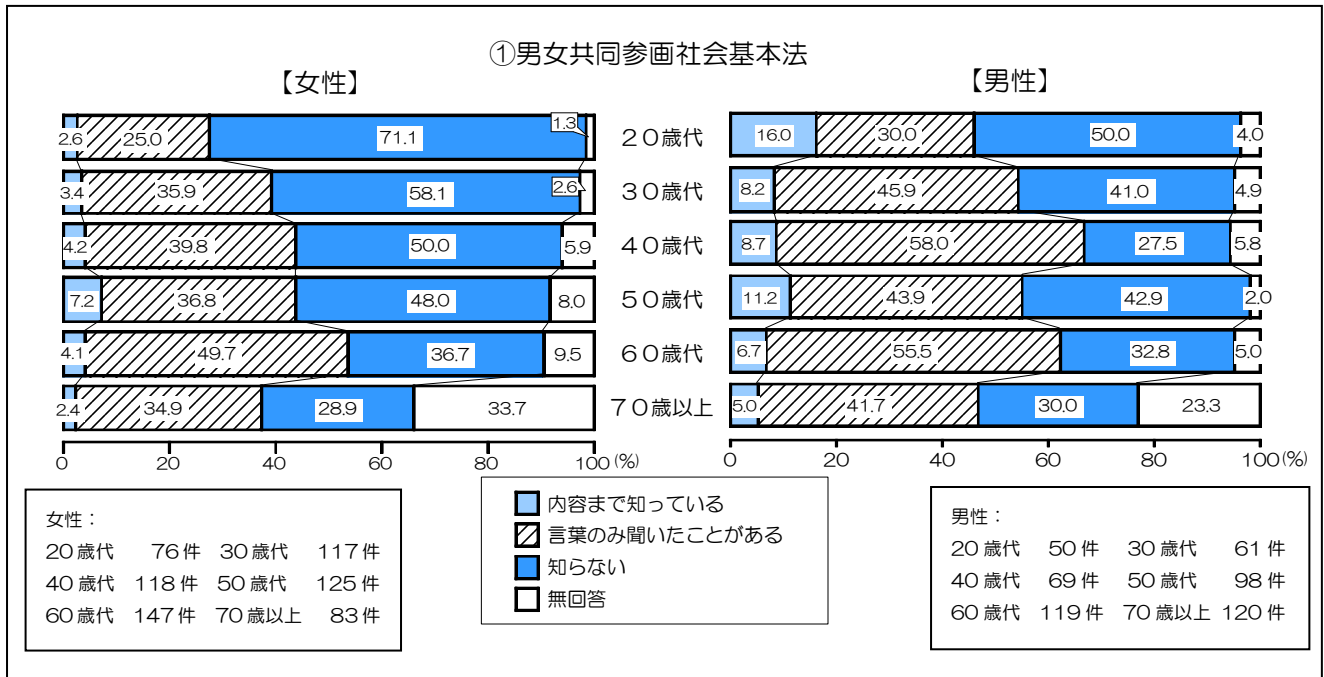
「⑧女性のチャレンジ支援」では、全体で『認知度』は17.1%にとどまり、「知らない」(71.3%)を大きく下回っている。性別にみると、『認知度』は女性の方が若干高いが、大きな男女差は見られない。

「⑨女性のエンパワーメント」では、全体で『認知度』は10.7%にとどまり、「知らない」(77.6%)を大きく下回っている。性別にみると、『認知度』は男性の方が若干高いが、大きな男女差は見られない。

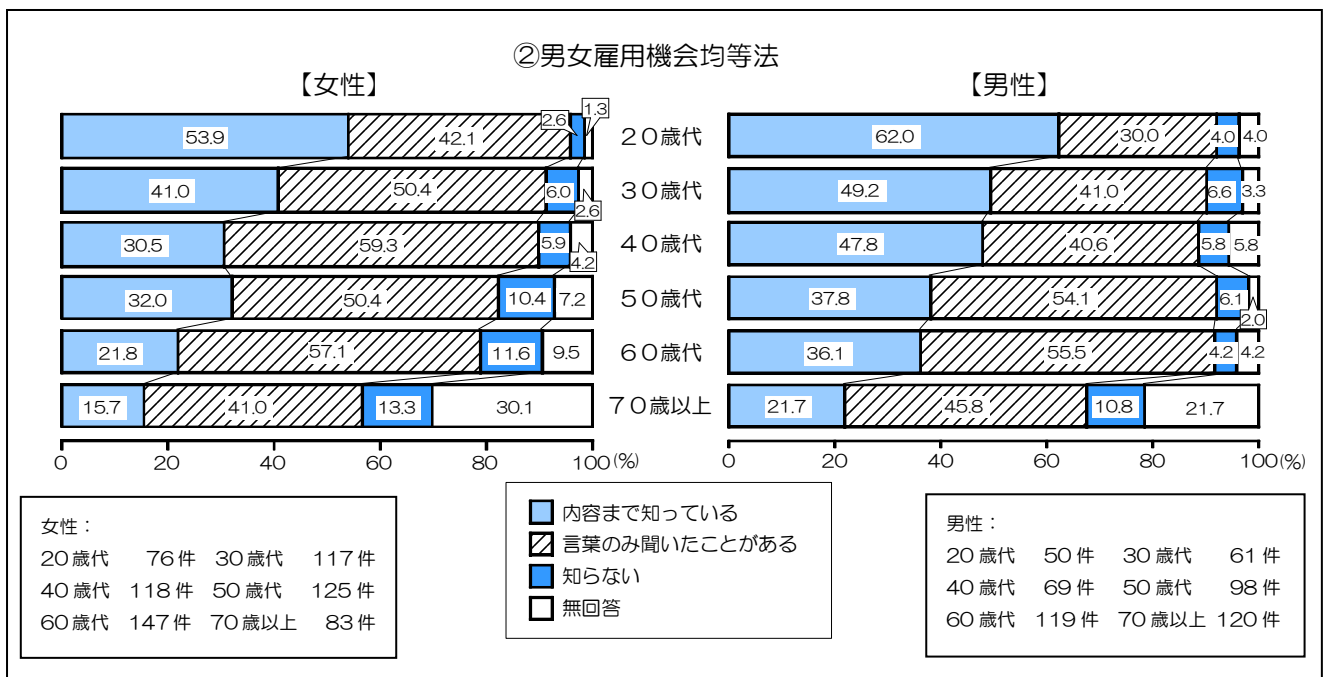
「⑩育児・介護休業法」では、全体で『認知度』は73.2%と高く、「内容まで知っている」という人は23.0%となっている。性別にみると、「内容まで知っている」は女性の方が若干高く、『認知度』は男性の方が若干高いが、いずれも大きな男女差は見られない。

「⑪次世代育成支援対策推進法」では、全体で『認知度』は26.3%にとどまり、「知らない」(62.4%)を大きく下回っている。「内容まで知っている」、「言葉のみ聞いたことがある」とともに男性の方が高く、『認知度』の男女差は6.5ポイントとなっている。(図8-1)

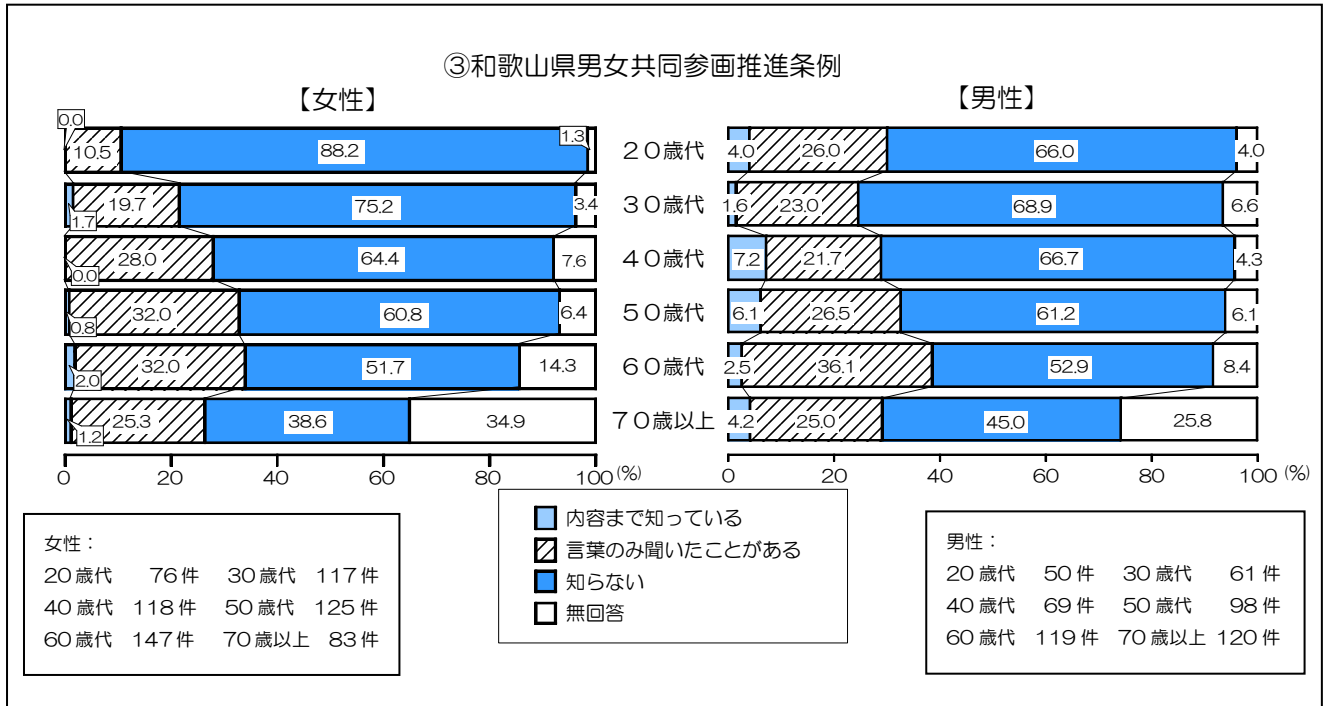
図8-1-1 性年齢別 男女共同参画の言葉についての認知度



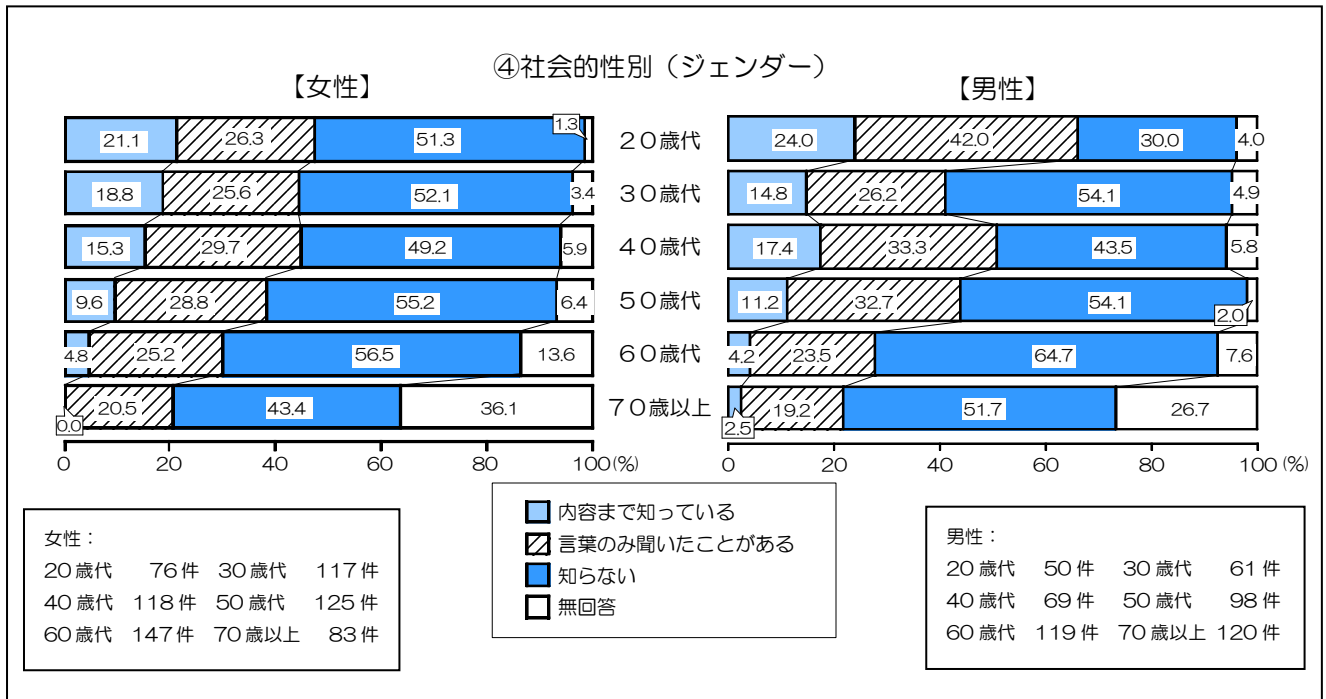
「①男女共同参画社会基本法」の認知度について、性年齢別にみると、『認知度』は女性では60歳代で53.8%と最も高く、年代が下がるほど割合は低くなり、20歳代で27.6%と最も低くなっている。男性では『認知度』は40歳代で66.7%、60歳代で62.2%と高くなっているが、「内容まで知っている」は20歳代で16.0%と最も高い。



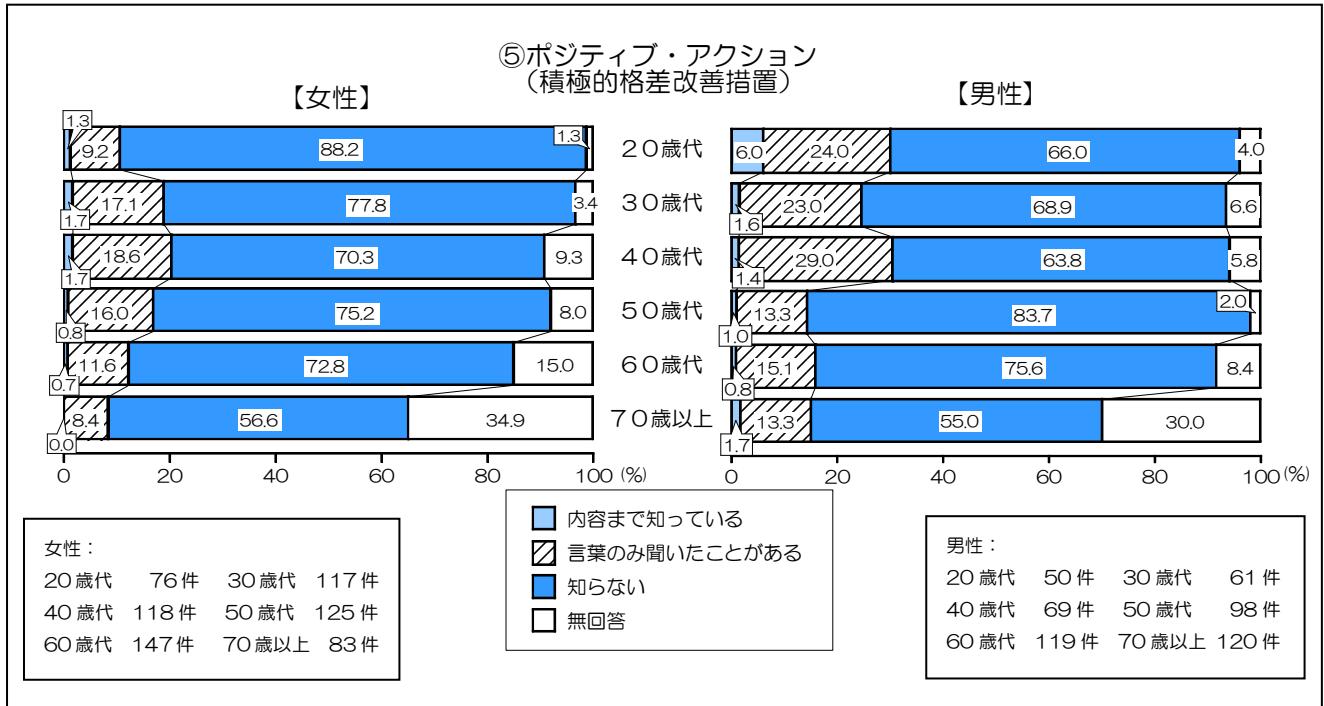
「②男女雇用機会均等法」の認知度について、性年齢別にみると、『認知度』は女性では20歳代で96.0%と最も高く、年代が上がるほど割合は低くなり、70歳以上で56.7%と最も低くなっている。男性では70歳以上を除く年代で8割以上と高く、特に、50歳代で91.9%、60歳代で91.6%と高くなっている。



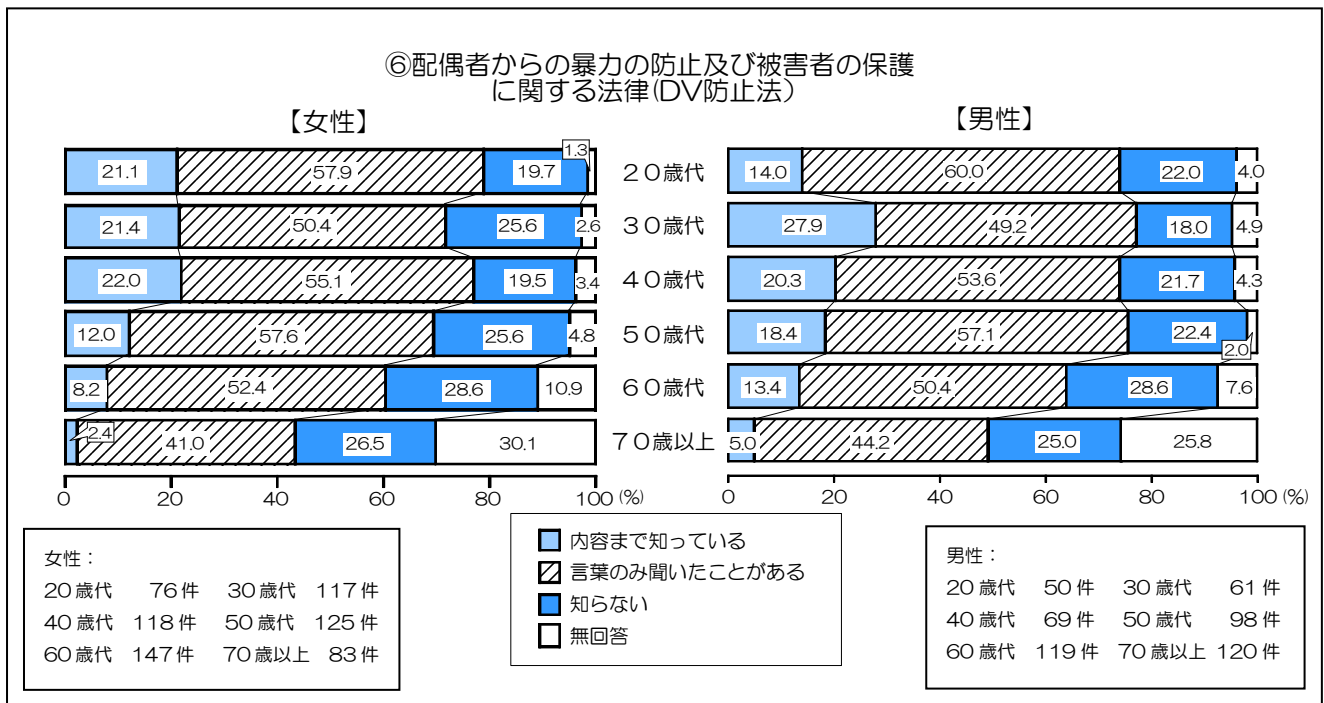
「③和歌山県男女共同参画推進条例」の認知度について、性年齢別にみると、『認知度』は女性では年代が上がるほど割合は高く(70歳以上を除く。)、60歳代で34.0%と最も高く、20歳代で10.5%と最も低くなっている。男性でも年代が上がるほど割合は高くなり(70歳以上を除く。)、60歳代で38.6%と最も高く、30歳代で24.6%と最も低くなっている。



「④社会的性別 (ジェンダー)」の認知度について、性年齢別にみると、『認知度』は女性では若年層ほど割合は高く、20歳代で47.4%と最も高く、70歳以上で20.5%と最も低くなっている。男性でも若年層ほど割合は高くなり、20歳代で66.0%と最も高く、70歳以上で21.7%と最も低くなっている。



「⑤ ポジティブ・アクション (積極的格差改善措置)」の認知度について、性年齢別にみると、『認知度』は女性では20歳代を除いて若年層ほど割合は高く、40歳代で20.3%と最も高く、70歳以上で8.4%と最も低くなっている。男性でも若年層の方が割合は高く、20歳代で30.0%、40歳代で30.4%と高く、50歳代以上の年代では1割台にとどまっている。

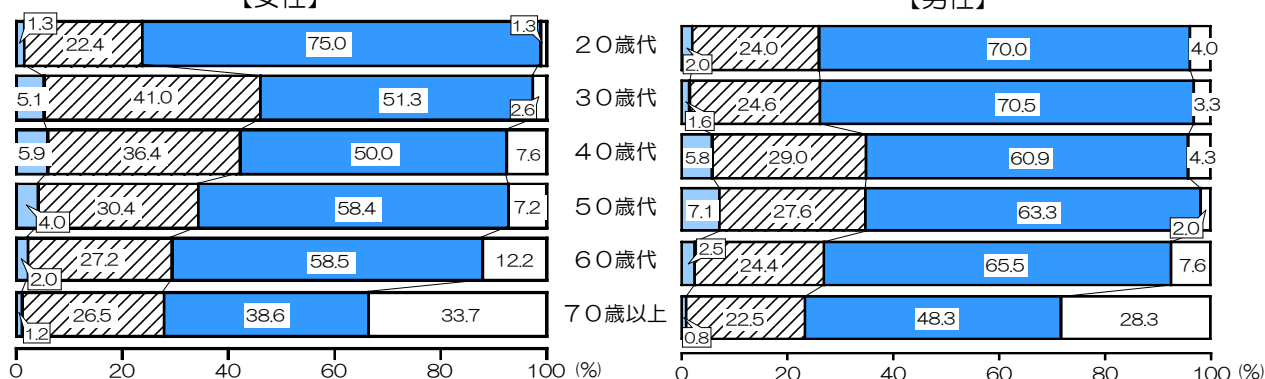


「⑥ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律 (DV防止法)」の認知度について、性年齢別にみると、『認知度』は女性では若年層ほど割合は高く、20歳代で79.0%、40歳代で77.1%と高く、逆に70歳以上では43.4%と最も低くなっている。男性は50歳代以下の年代で7割以上と高く、特に、30歳代では「内容まで知っている」が27.9%と最も高くなっている。

⑦和歌山県男女共生社会推進センター「りいぶる」

【女性】

【男性】



女性：  
20歳代 76件 30歳代 117件  
40歳代 118件 50歳代 125件  
60歳代 147件 70歳以上 83件

■ 内容まで知っている  
▨ 言葉のみ聞いたことがある  
■ 知らない  
□ 無回答

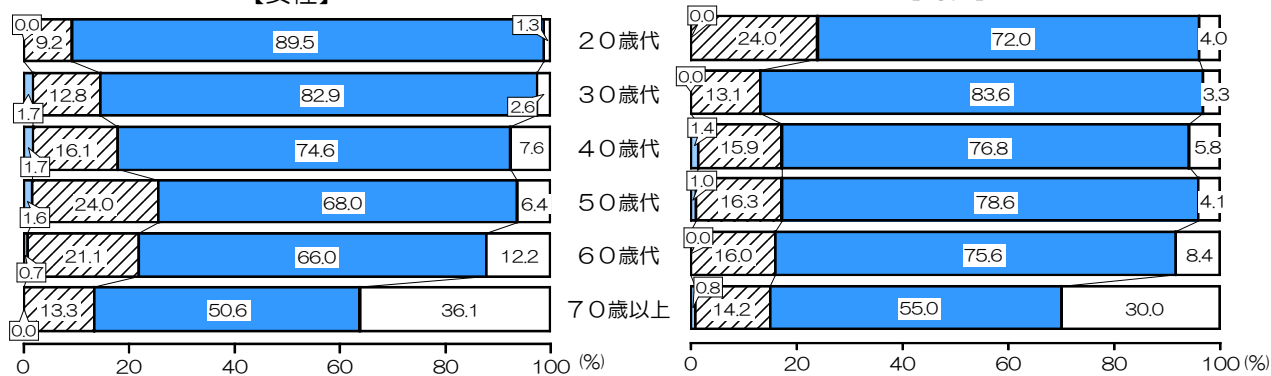
男性：  
20歳代 50件 30歳代 61件  
40歳代 69件 50歳代 98件  
60歳代 119件 70歳以上 120件

「⑦和歌山県男女共生社会推進センター「りいぶる」」の認知度について、性年齢別にみると、『認知度』は女性では20歳代を除いて、若年層ほど割合は高く、30歳代で46.1%と最も高く、70歳以上で27.7%と最も低くなっている。男性は40～50歳代で3割以上と高く、その他の年代は2割台以下にとどまっている。

⑧女性のチャレンジ支援

【女性】

【男性】

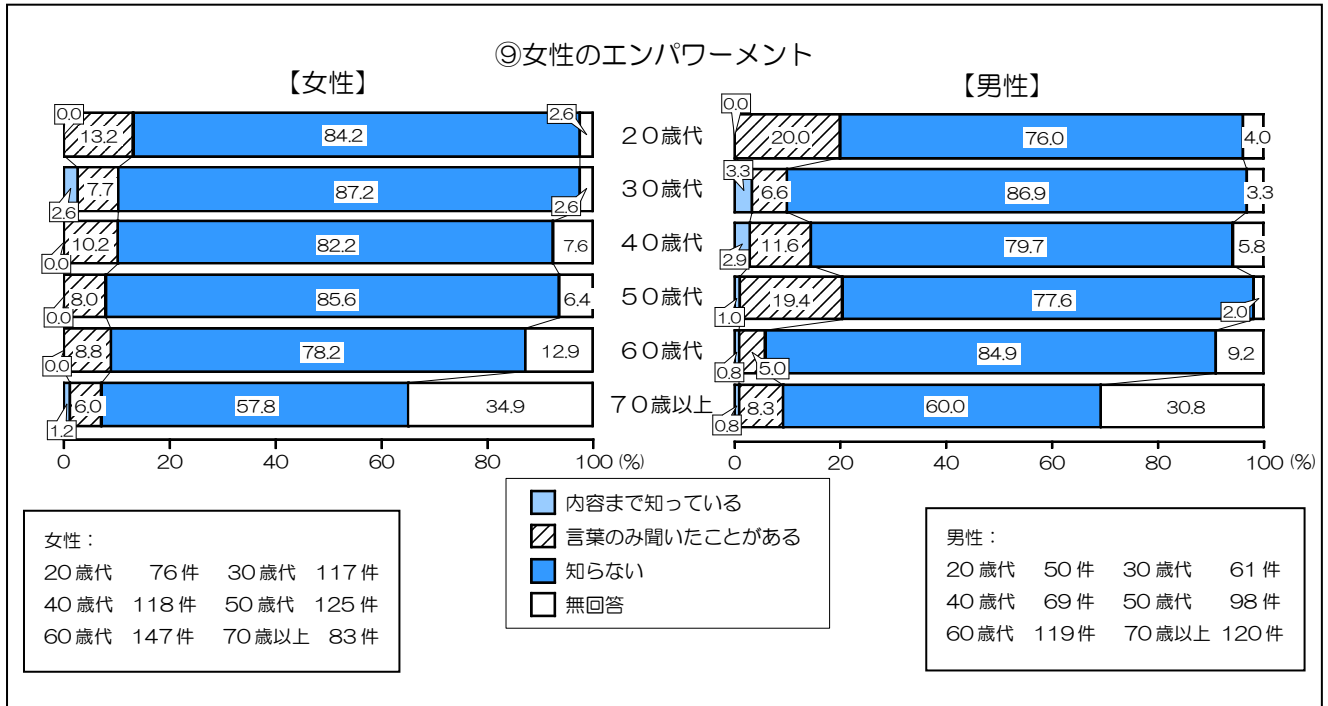


女性：  
20歳代 76件 30歳代 117件  
40歳代 118件 50歳代 125件  
60歳代 147件 70歳以上 83件

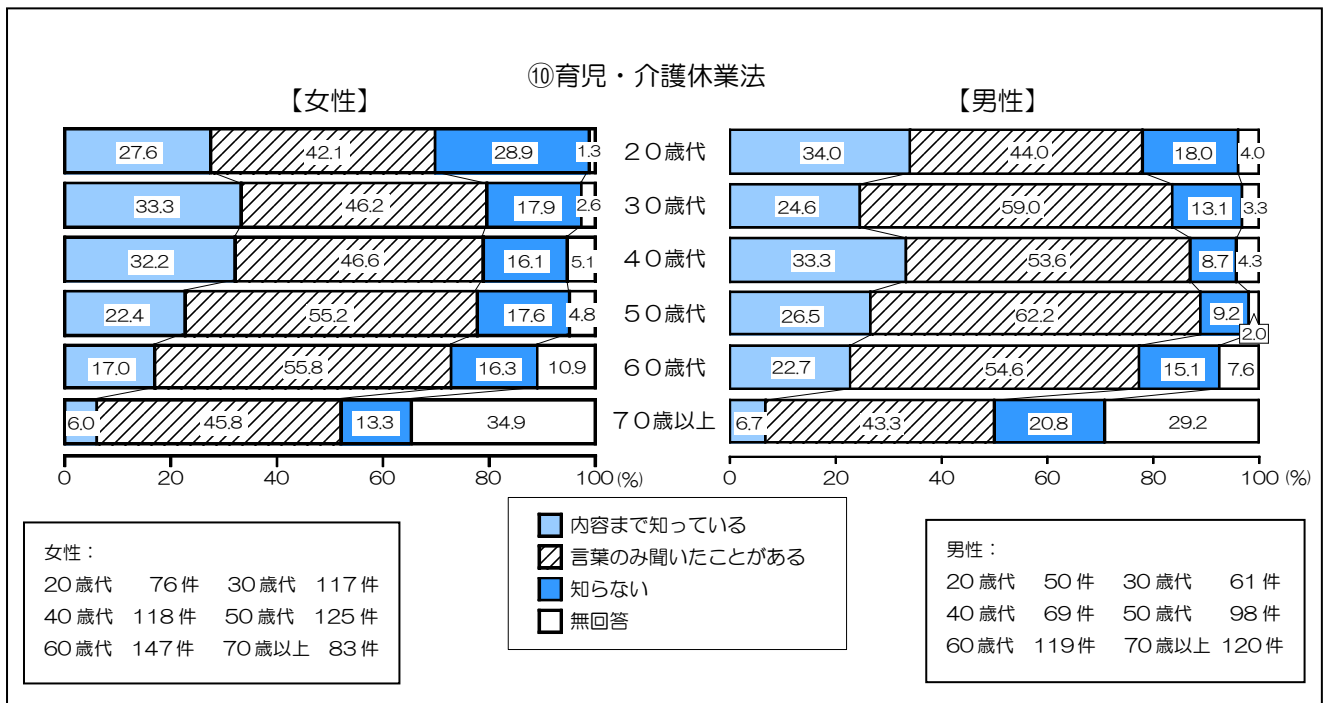
■ 内容まで知っている  
▨ 言葉のみ聞いたことがある  
■ 知らない  
□ 無回答

男性：  
20歳代 50件 30歳代 61件  
40歳代 69件 50歳代 98件  
60歳代 119件 70歳以上 120件

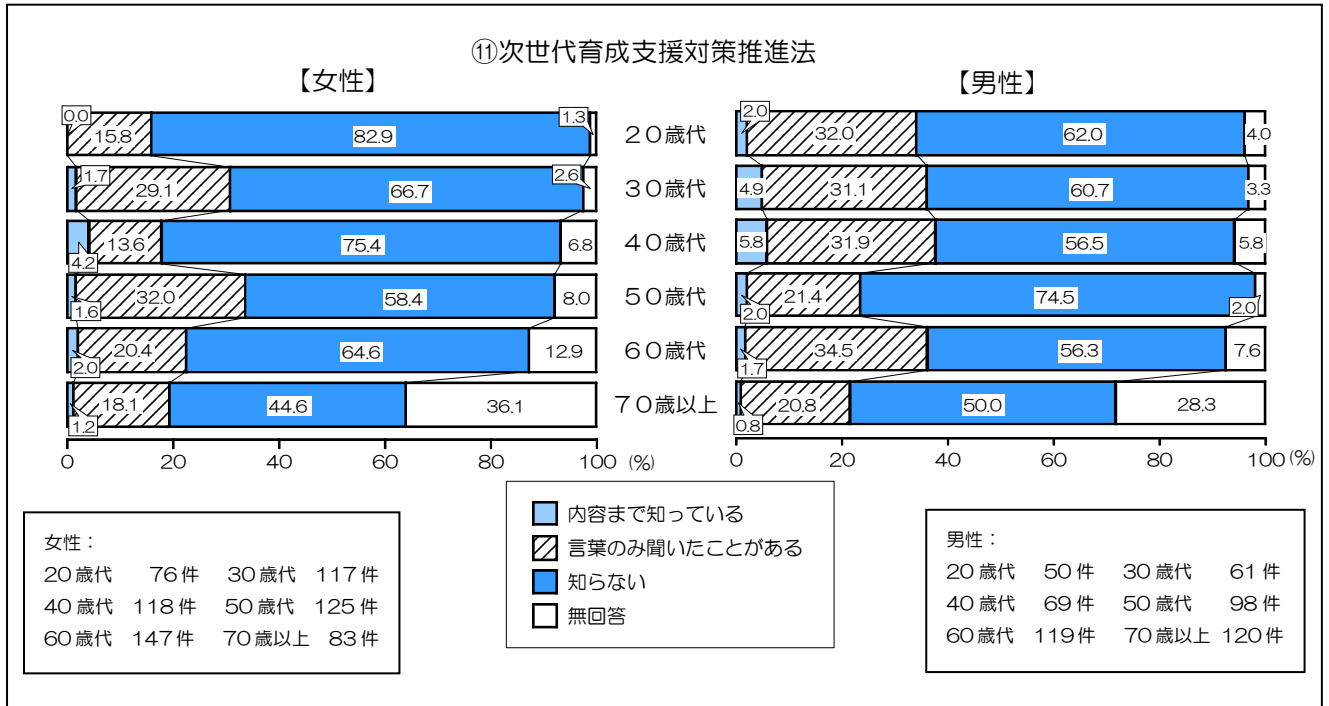
「⑧女性のチャレンジ支援」の認知度について、性年齢別にみると、『認知度』は女性では50歳代(25.6%)を中心に高齢層で高く、20歳代では9.2%と最も低くなっている。男性は逆に20歳代で24.0%と最も高く、30歳代で13.1%と最も低くなっている。



「⑨女性のエンパワメント」の認知度について、性年齢別にみると、『認知度』は女性では若年層ほど高く、20歳代で13.2%となっているが、年代においてそれほど大きな差は見られない。男性は20歳代で20.0%、50歳代で20.4%と高くなっている。30歳代では『認知度』は9.9%と低いですが、「内容まで知っている」は3.3%と最も高い。



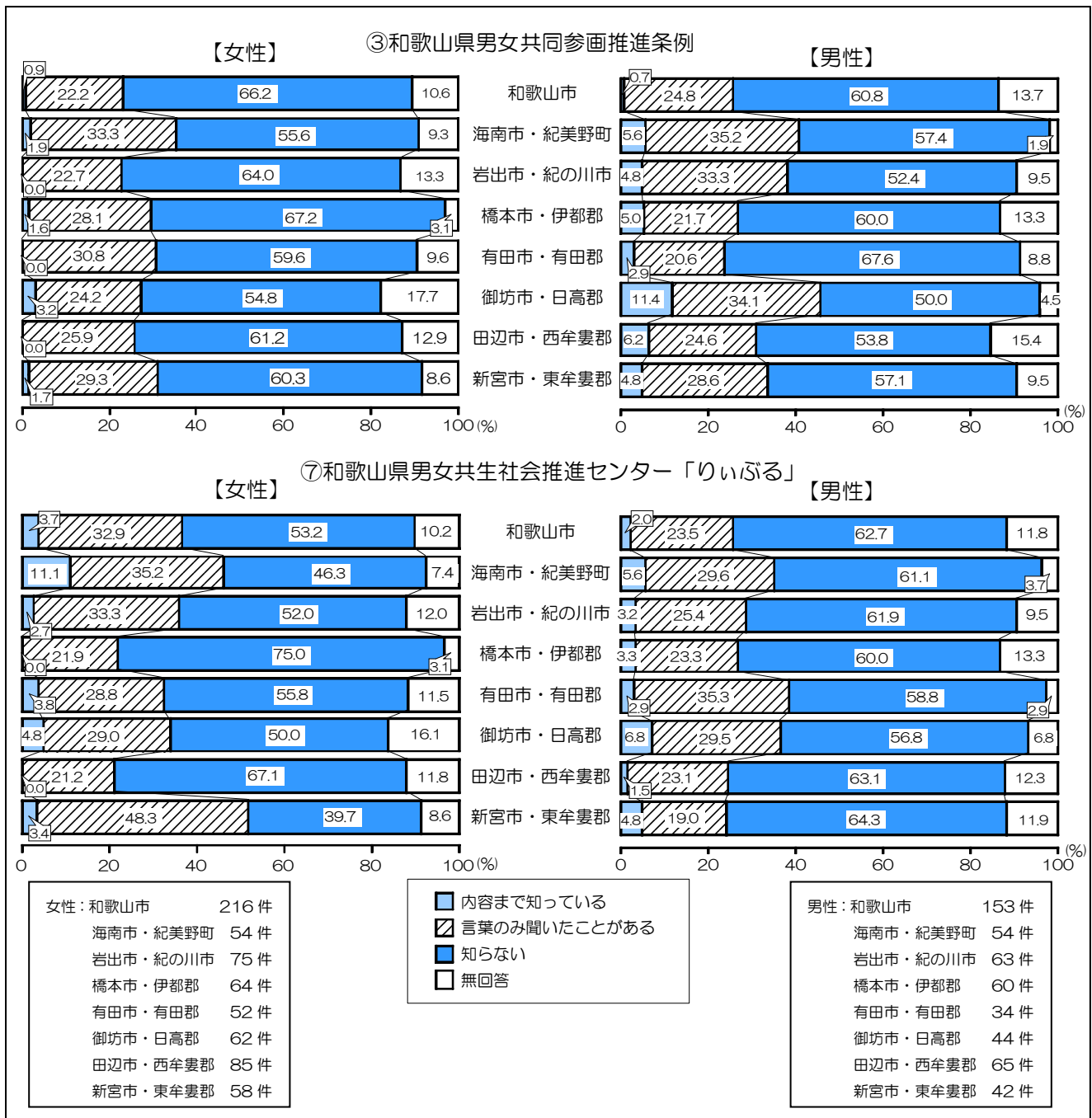
「⑩育児・介護休業法」の認知度について、性年齢別にみると、『認知度』は女性では30歳代（79.5%）を中心に30～60歳代で7割以上と高くなっている。男性は50歳代（88.7%）を中心に30～50歳代で8割以上と高くなっている。



「⑪次世代育成支援対策推進法」の認知度について、性年齢別にみると、『認知度』は女性では30歳代で30.8%、50歳代で33.6%と高く、20歳代で15.8%と低くなっている。男性は50歳代、70歳以上を除く年代で3割以上と高くなっている。



図8-1-2 居住地域別 男女共同参画の言葉についての認知度

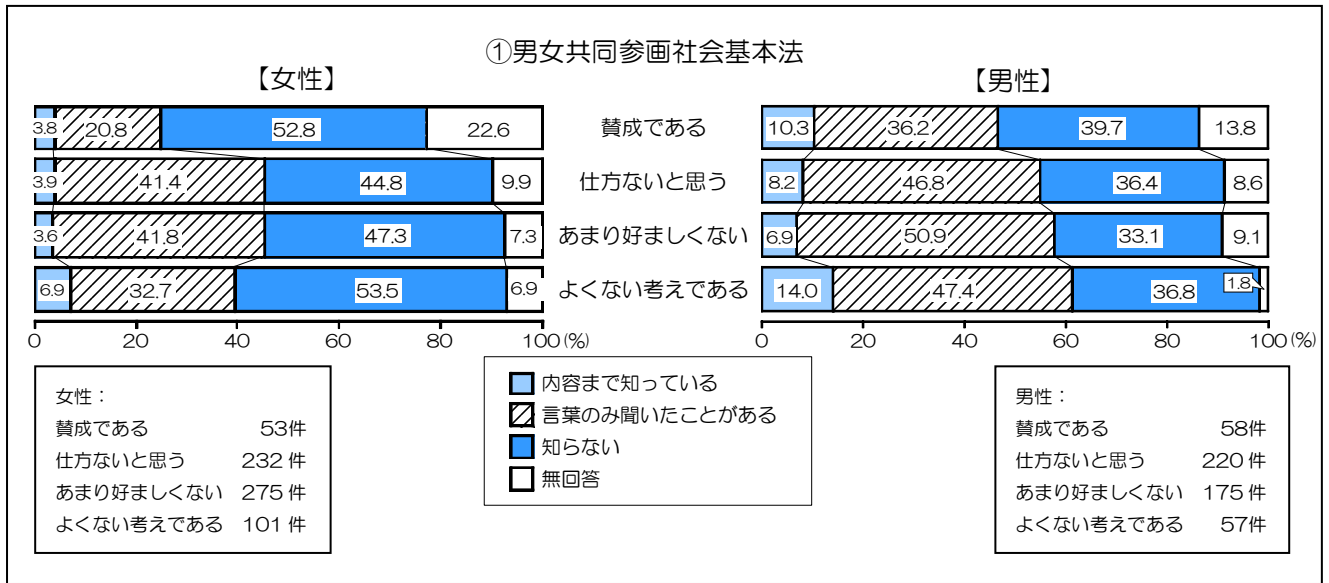


《ポイント》

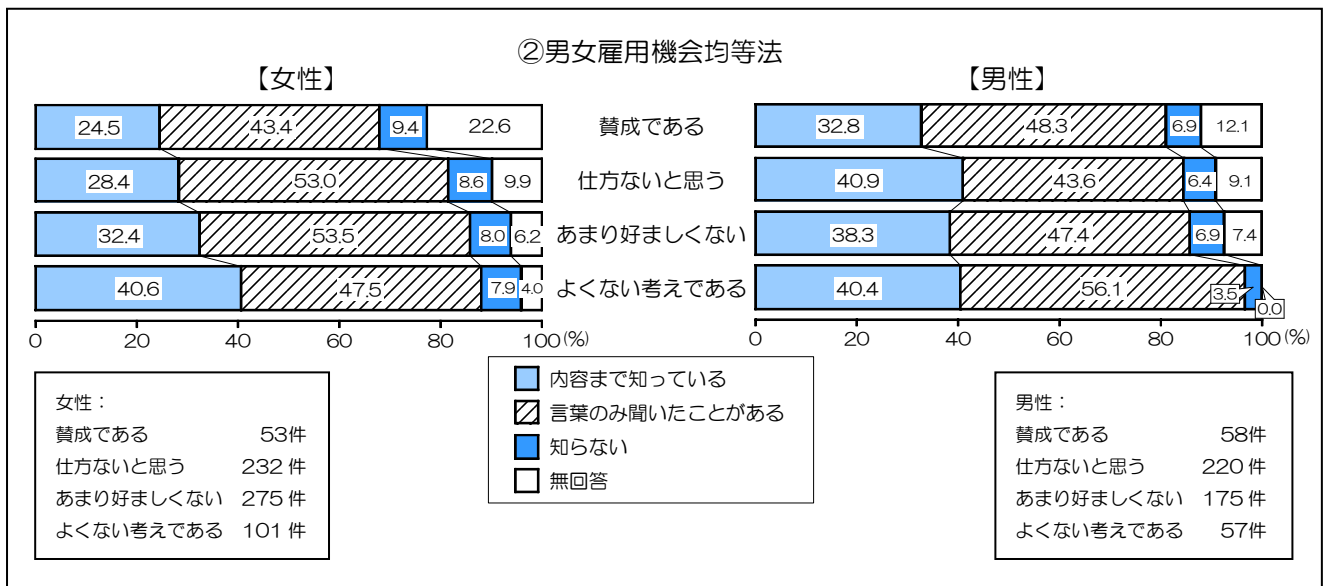
- 「男女共生社会推進センター「りいぶる」」の認知度は、「新宮市・東牟婁郡」の女性で半数以上と高い。
- ほとんどの項目の認知度は、男女の固定的役割分担について否定的な人の方が男女とも高くなっている。(図8-1-3)
- 「次世代育成支援対策推進法」の男性の認知度は、役割分担に肯定的な人の方が高くなっている。(図8-1-3)

居住地域別にみると、「③和歌山県男女共同参画推進条例」の認知度は「御坊市・日高郡」の男性で45.5%と最も高く、次いで、「海南市・紀美野町」の男性で40.8%、女性で35.2%、「⑦和歌山県男女共生社会推進センター「りいぶる」」の認知度は「新宮市・東牟婁郡」の女性で51.7%と最も高く、次いで、「海南市・紀美野町」の女性で46.3%、男性では、「有田市・有田郡」で38.2%と最も高くなっている。(図8-1-2)

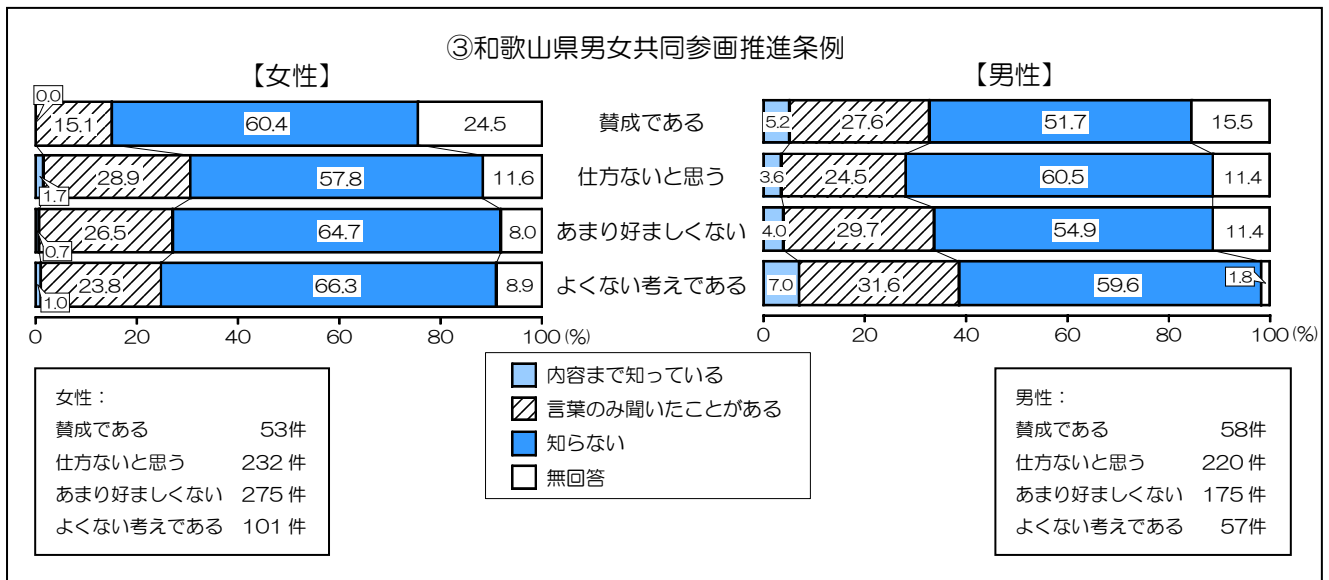
図8-1-3 固定的役割分担意識別 男女共同参画の言葉についての認知度



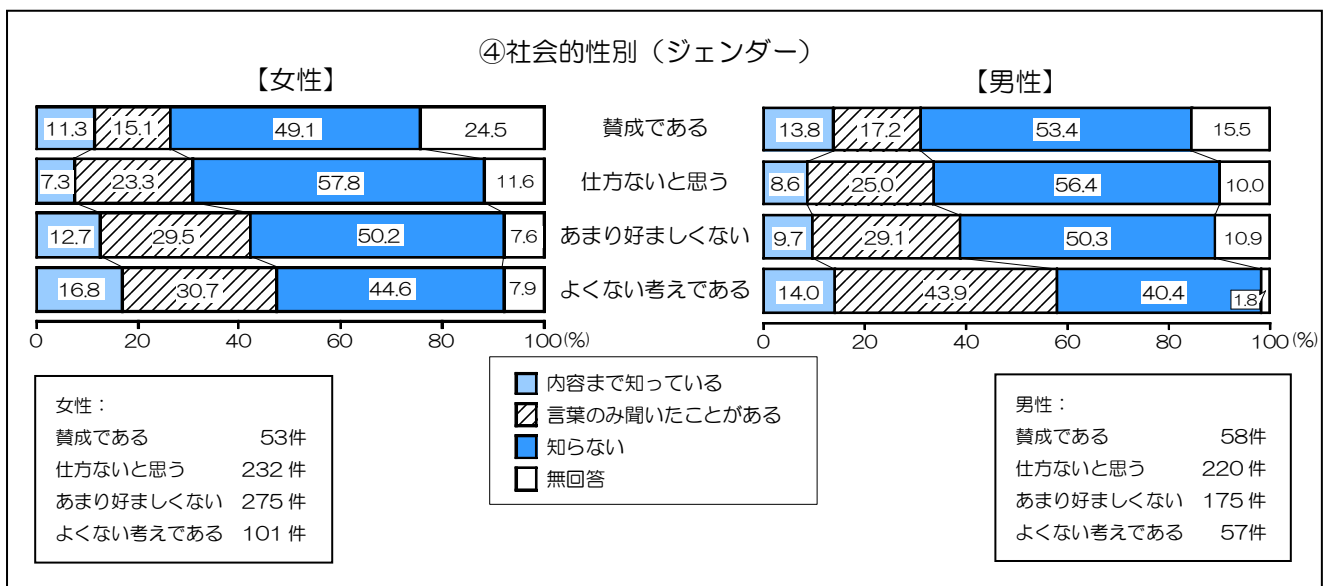
「①男女共同参画社会基本法」の認知度について、固定的役割分担意識別にみると、『認知度』は女性では役割分担に「賛成である」という人で最も低くなっている。男性では『認知度』は役割分担に否定的な人ほど高くなっている。



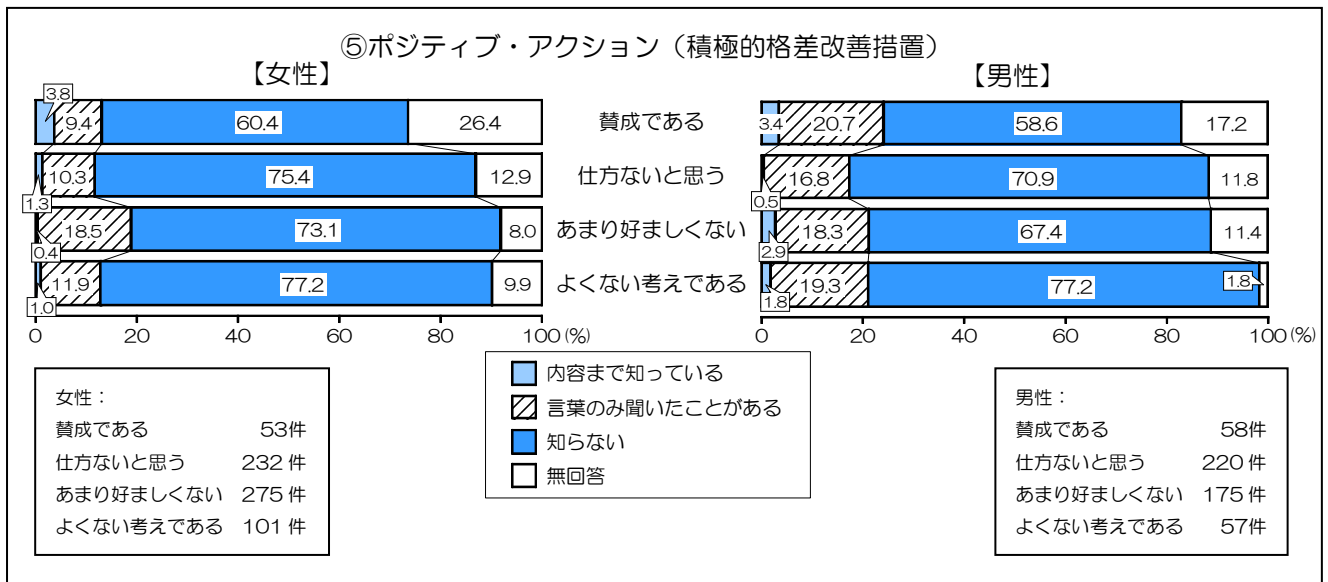
「②男女雇用機会均等法」の認知度について、固定的役割分担意識別にみると、男女とも『認知度』は役割分担に否定的な人ほど高く、「よくない考えである」という人は、女性で88.1%、男性では96.5%となっている。



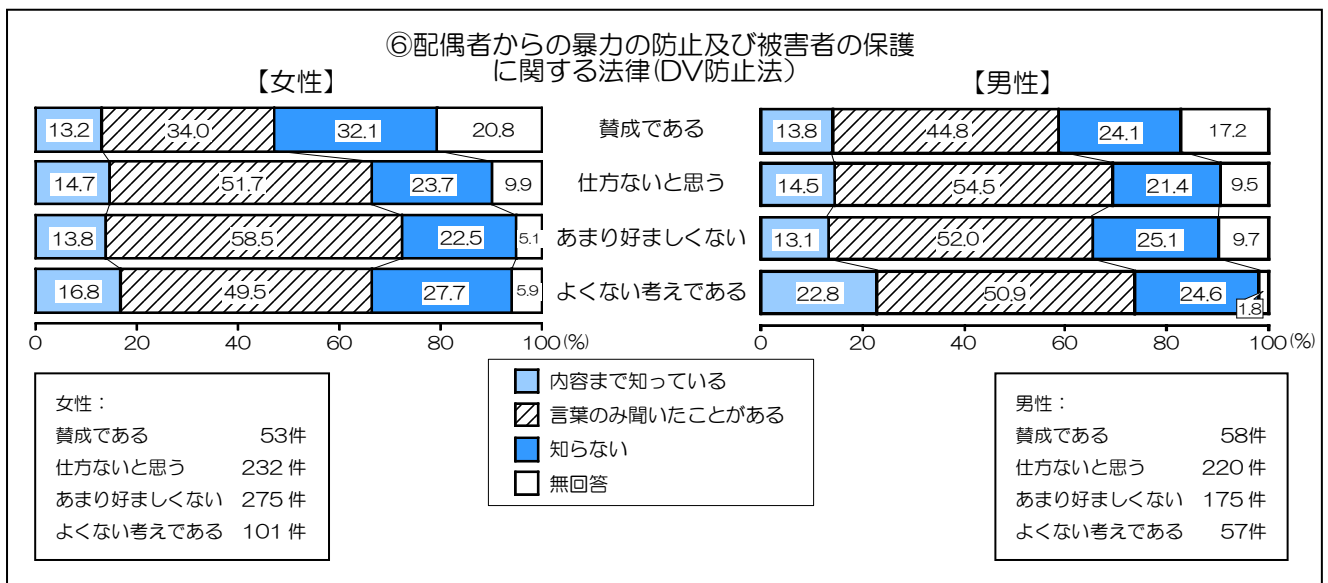
「③和歌山県男女共同参画推進条例」の認知度について、固定的役割分担意識別にみると、『認知度』は女性では役割分担に「賛成である」という人で最も低く15.1%、男性では役割分担に否定的な人ほど高くなっているが、「賛成である」という人の『認知度』は、32.8%と「仕方ないと思う」という人の28.1%より若干高い。



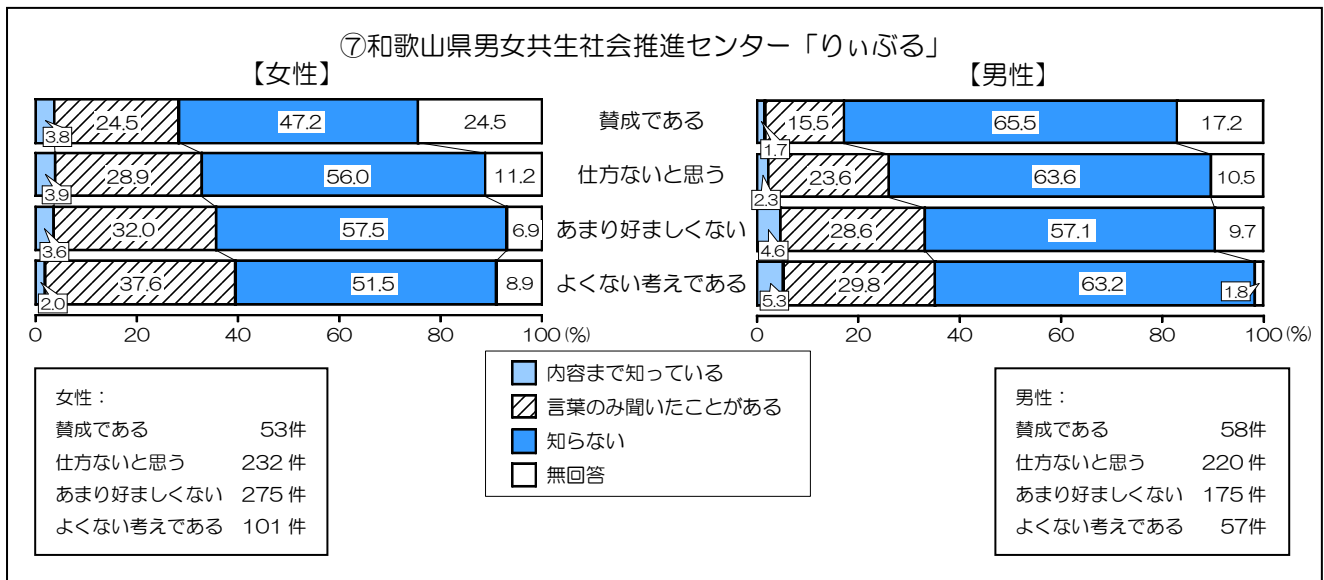
「④社会的性別（ジェンダー）」の認知度について、固定的役割分担意識別にみると、男女とも『認知度』は役割分担に否定的な人ほど高く、「よくない考えである」という人は、女性で47.5%、男性では57.9%となっている。



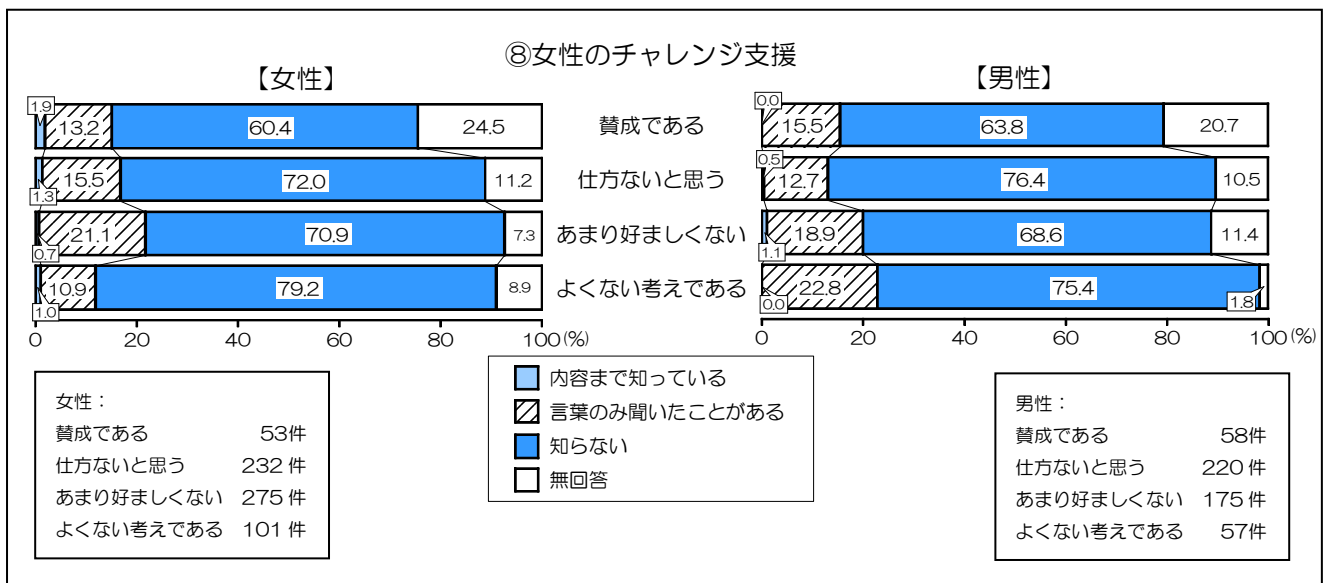
「⑤ポジティブアクション（積極的改善措置）」の認知度について、固定的役割分担意識別にみると、「知らない」という人の割合は、男女とも「よくない考えである」という人で最も高く、77.2%となっている。『認知度』は男性では、役割分担に「賛成である」という人で最も高い。



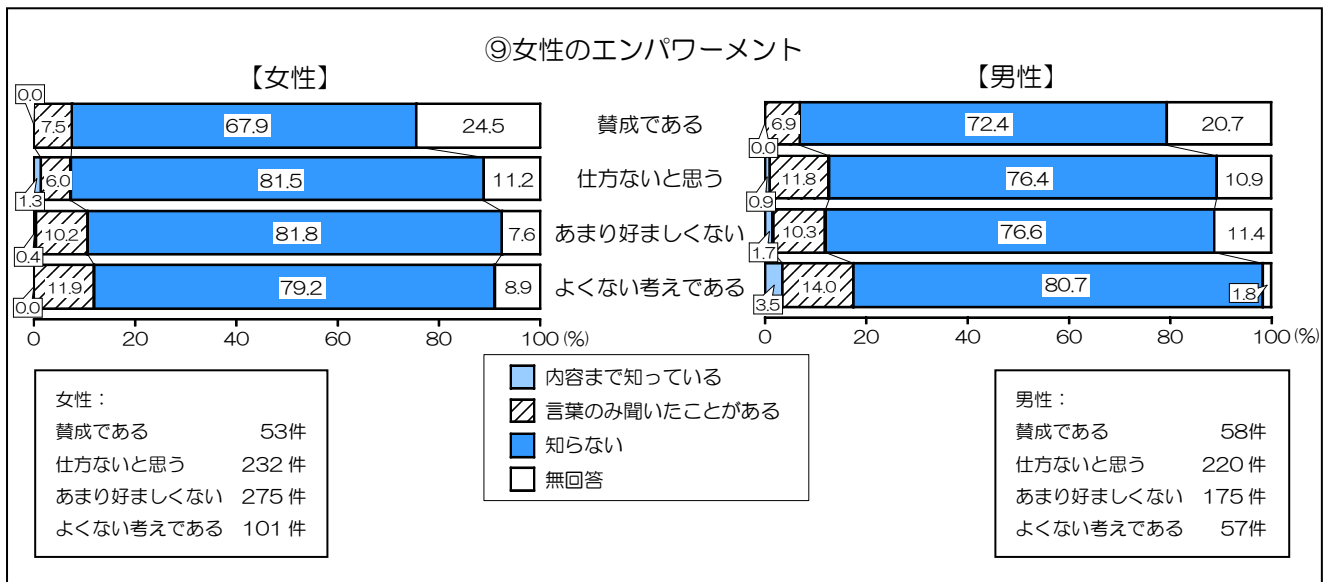
「⑥配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）」の認知度について、固定的役割分担意識別にみると、男女とも『認知度』は役割分担に否定的な人の方が高く、「賛成である」という人の『認知度』は、最も低くなっている。



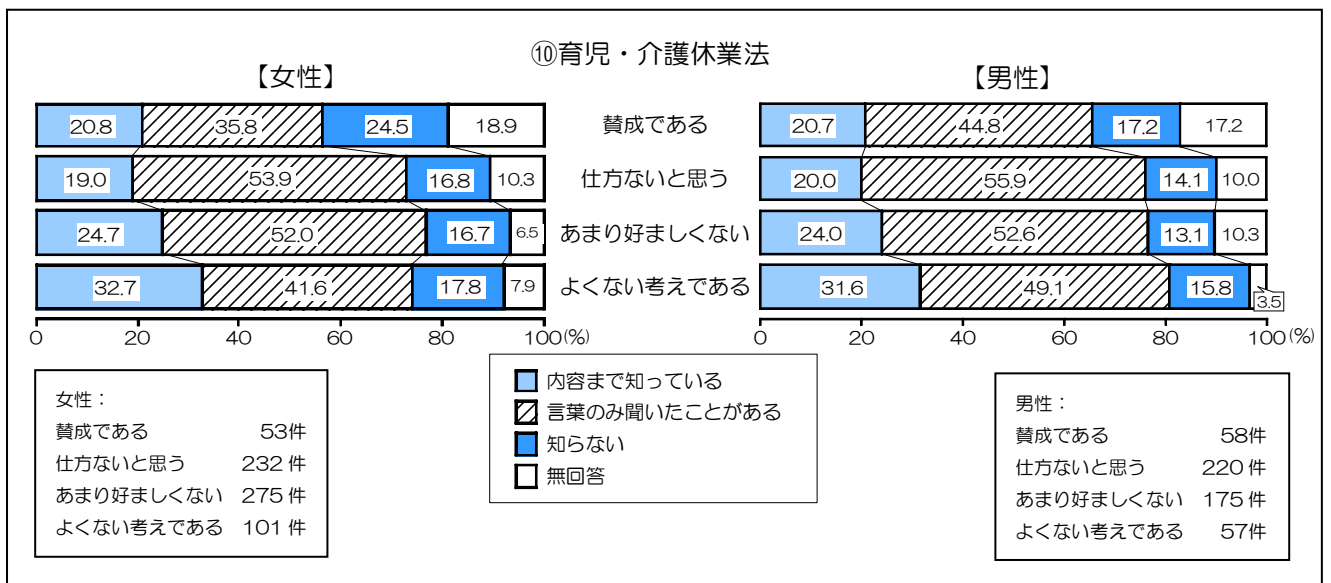
「⑦和歌山県男女共生社会推進センター「りいぶる」」の認知度について、固定的役割分担意識別にみると、『認知度』は男女とも役割分担に否定的な人ほど高く、「よくない考えである」という人は、女性で39.6%、男性で35.1%と最も高くなっている。



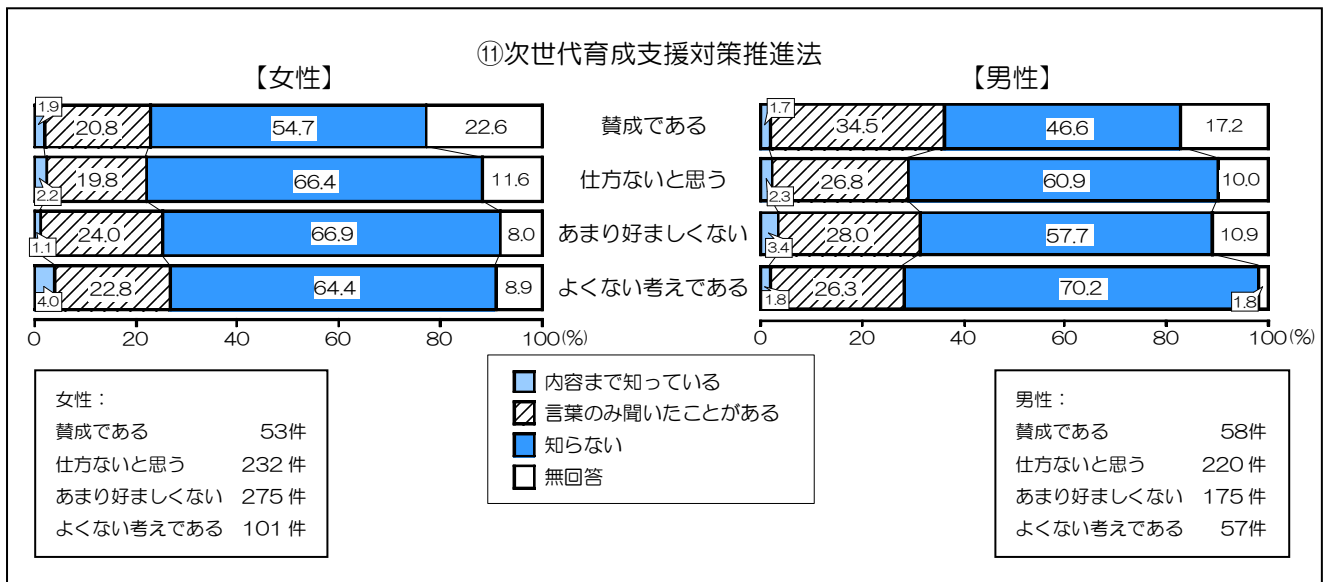
「⑧女性のチャレンジ支援」の認知度について、固定的役割分担意識別にみると、女性では『認知度』は役割分担に「あまり好ましくない」という人が21.8%で最も高く、「よくない考えである」という人は、11.9%と最も低い。男性では役割分担に否定的な人ほど高く、「よくない考えである」という人は22.8%と最も高くなっている。



「⑨女性のエンパワメント」の認知度について、固定的役割分担意識別にみると、『認知度』は男女とも役割分担に否定的な人ほど高く、「よくない考えである」という人は、女性で11.9%、男性で17.5%と最も高くなっている。



「⑩育児・介護休業法」の認知度について、固定的役割分担意識別にみると、男女とも『認知度』は役割分担に否定的な人ほど高く、女性では、「あまり好ましくない」という人が76.7%と最も高く、男性では「よくない考えである」という人が80.7%と最も高くなっている。

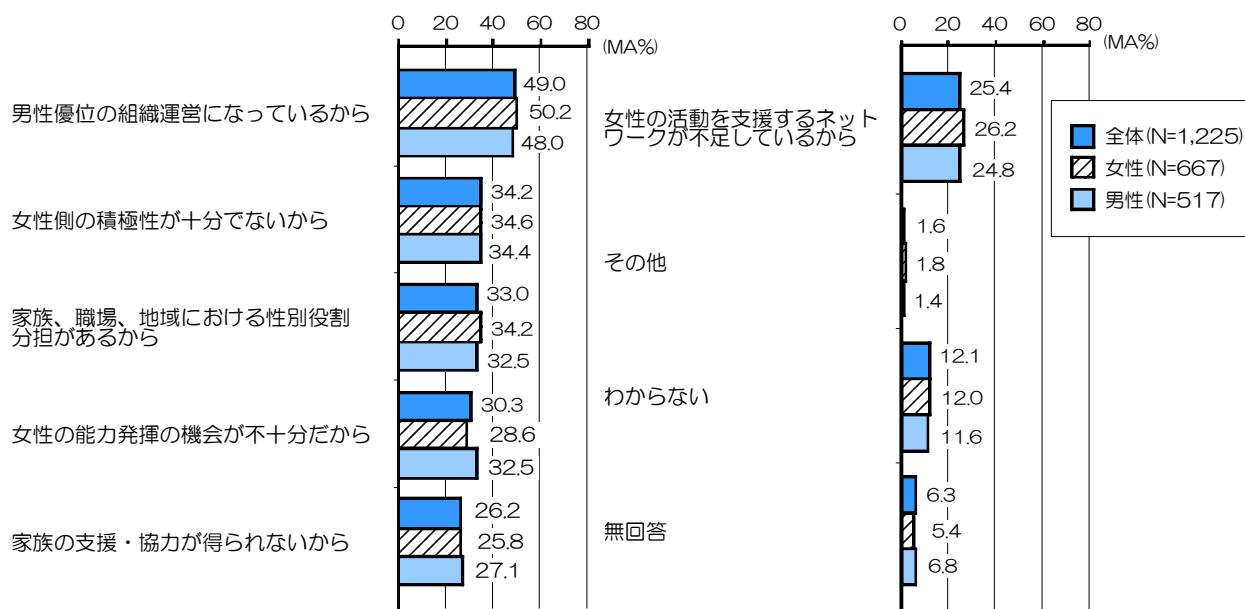


「①次世代育成支援対策推進法」の認知度について、固定的役割分担意識別にみると、『認知度』は女性では役割分担に否定的な人ほど高く、逆に、男性では役割分担に肯定的な人ほど高くなっている。

## 8-2 行政での方針決定の過程で女性の進出を阻む理由

問38 あなたは、地方自治体など行政において、政策の企画や方針決定の過程で女性の進出を阻む理由があるとすれば、どのようなことだと思いますか。(あてはまるもの全てに○印)

図8-2 行政での方針決定の過程で女性の進出を阻む理由



### 《ポイント》

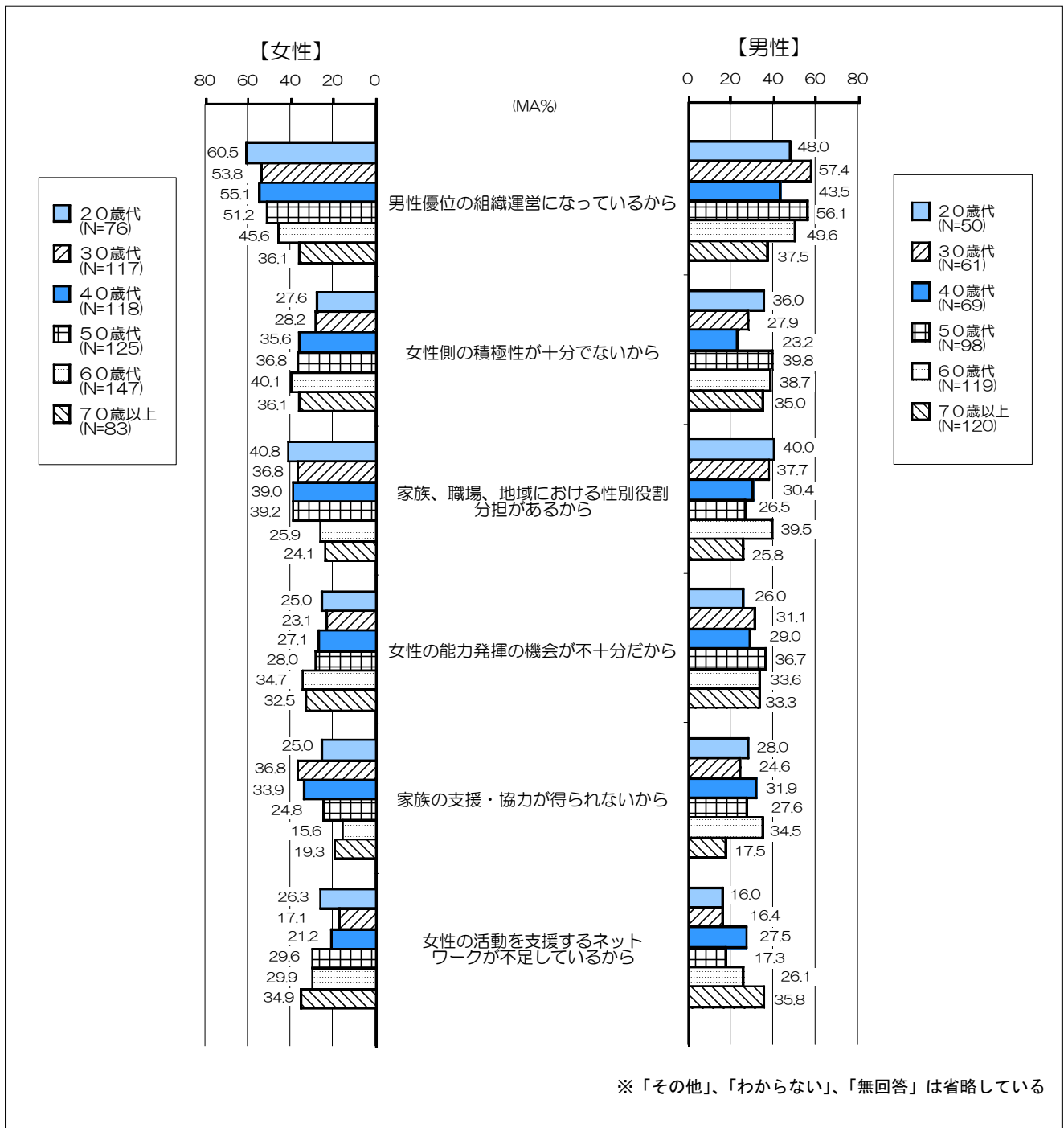
○「男性優位の組織運営になっているから」という意見が男女とも約半数と最も多い。

行政での方針決定の過程で女性の進出を阻む理由について、全体では、「男性優位の組織運営になっているから」が49.0%と最も高く、次いで、「女性側の積極性が十分でないから」が34.2%、「家族、職場、地域における性別役割分担があるから」が33.0%となっている。

性別にみると、ほとんどの項目で男女差は小さいが、「女性の能力発揮の機会が不十分だから」では男性の方が3.9ポイント高くなっている。(図8-2)



図8-2-1 性年齢別 行政での方針決定の過程で女性の進出を阻む理由



《ポイント》

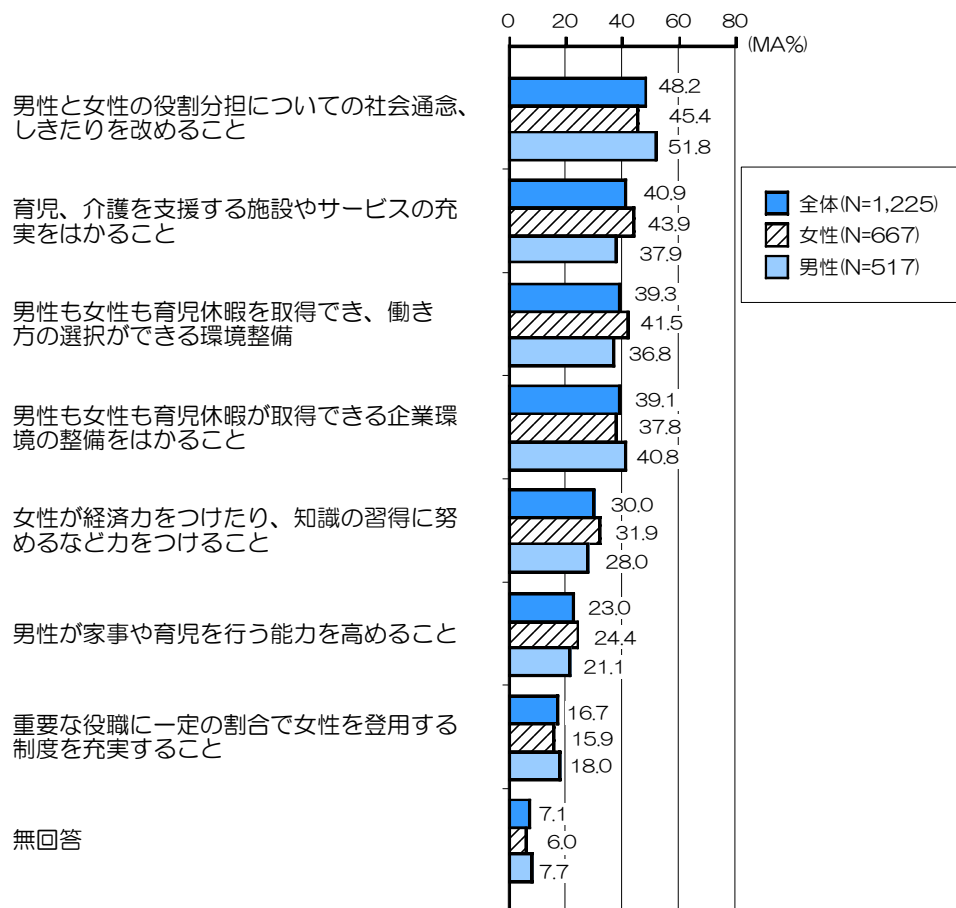
○女性では、「男性優位の組織運営になっているから」は若年層で高く、「女性側の積極性が十分でないから」は高齢層ほど高くなっている。

性年齢別にみると、「男性優位の組織運営になっているから」は女性では若年層ほど高く、20歳代では60.5%、30～50歳代で50%以上となっている。男性では30歳代で57.4%、50歳代で56.1%と高くなっている。「女性側の積極性が十分でないから」は女性では40歳代以上の年代で割合は高く、60歳代で40.1%と最も高くなっている。男性では30～40歳代を除く年代で3割以上と高くなっている。「家族の支援・協力が得られないから」では女性の30歳代で36.8%と最も高くなっている。「女性の能力発揮の機会が不十分だから」では、女性の60歳代以上、男性の50歳代以上の年代で3割以上と高くなっている。(図8-2-1)

### 8-3 男女とも社会のあらゆる分野に参画するために必要なこと

問39 今後、男性も女性も、ともに社会のあらゆる分野に積極的に参画していくためにはどのようなことが特に必要だと思いますか。(3つまでに○印)

図8-3 男女とも社会のあらゆる分野に参画するために必要なこと



#### 《ポイント》

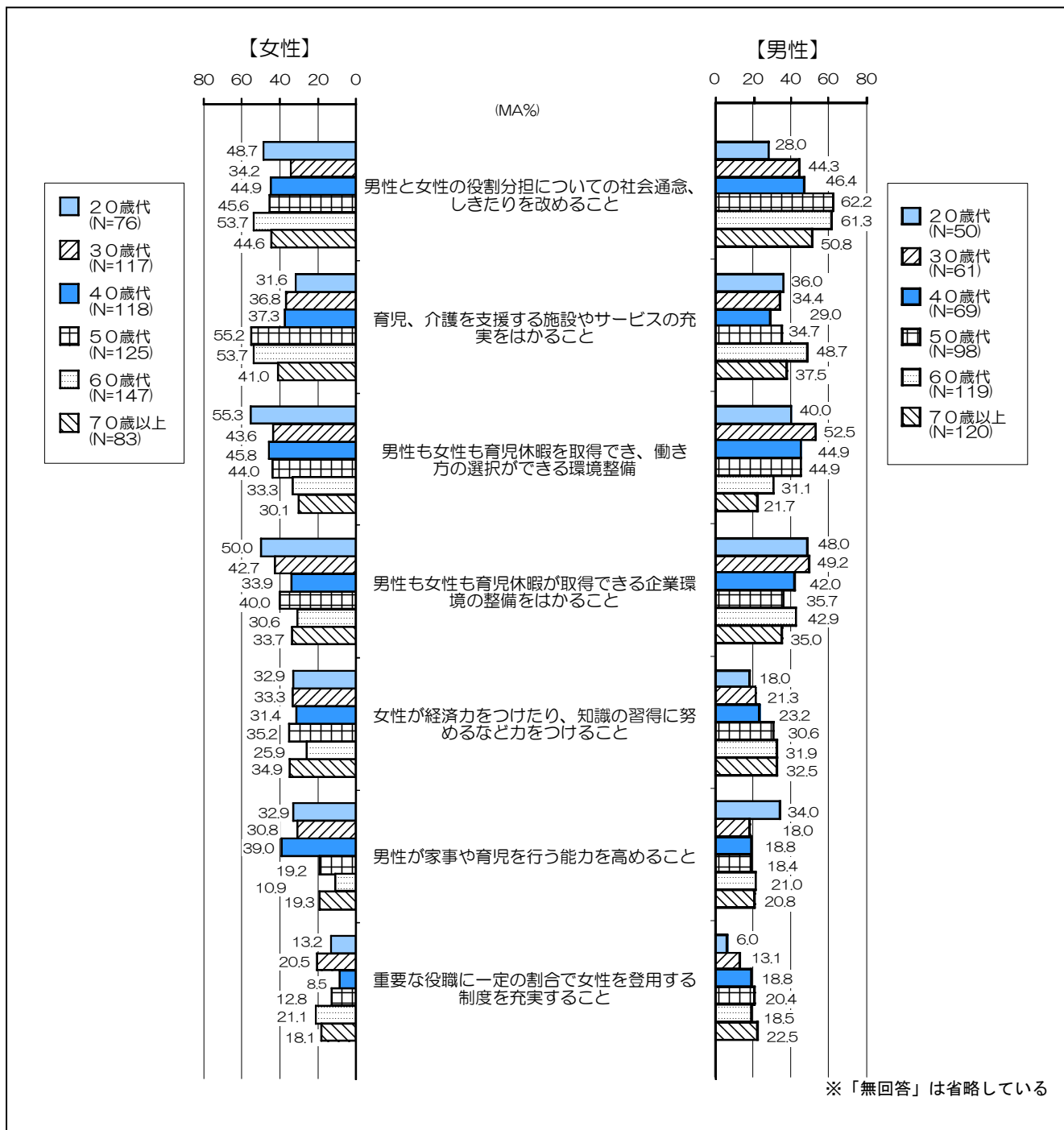
○男女とも「男性と女性の役割分担についての社会通念、しきたりを改めること」が最も高く、男性では半数以上となっている。

男女とも社会のあらゆる分野に参画するために必要なことについて、全体では「男性と女性の役割分担についての社会通念、しきたりを改めること」が48.2%と最も高く、次いで、「育児、介護を支援する施設やサービスの充実をはかること」が40.9%、「男性も女性も育児休暇を取得でき、働き方の選択ができる環境整備」が39.3%となっている。

性別にみると、「男性と女性の役割分担についての社会通念、しきたりを改めること」では男性が6.4ポイント高く、「育児、介護を支援する施設やサービスの充実をはかること」では6.0ポイント、「男性も女性も育児休暇を取得でき、働き方の選択ができる環境整備」では4.7ポイント女性が高くなっている。

(図8-3)

図8-3-1 性年齢別 男女とも社会のあらゆる分野に参画するために必要なこと



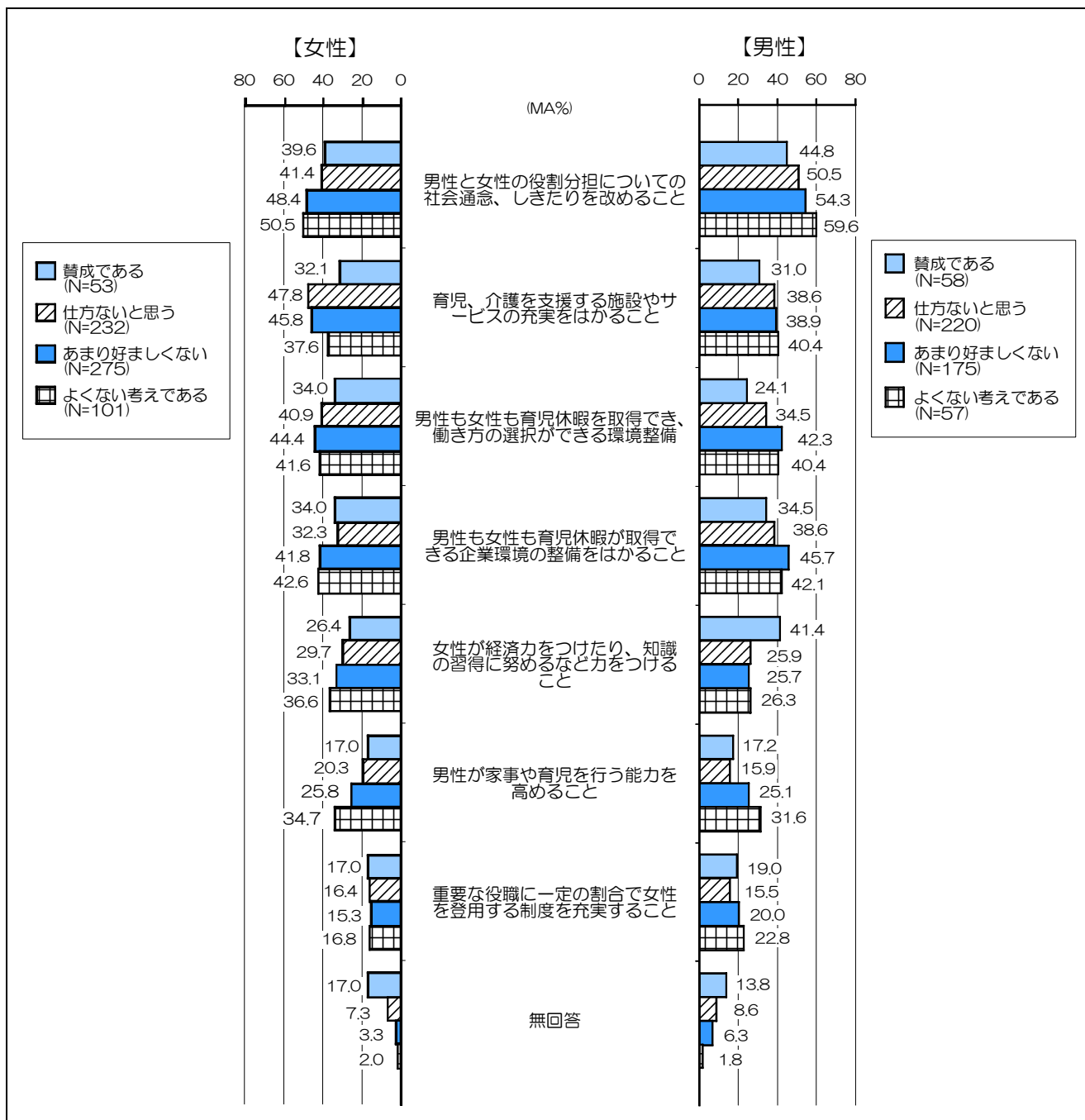
《ポイント》

○「男性と女性の役割分担についての社会通念、しきたりを改めること」は男性の50～60歳代で6割以上、「育児、介護を支援する施設やサービスの充実をはかること」は女性の50～60歳代で半数以上と高い。

性年齢別にみると、「男性と女性の役割分担についての社会通念、しきたりを改めること」は女性では60歳代で53.7%と最も高く、30歳代で最も低くなっている。男性は50～60歳代で6割以上と高く、年代が下がるほど割合は低くなっている。「育児、介護を支援する施設やサービスの充実をはかること」は、女性では50～60歳代を中心に高年齢層で高い。「男性も女性も育児休暇を取得でき、働き方の選択ができる環境整備」、「男性も女性も育児休暇が取得できる企業環境の整備をはかること」では男女とも若年層ほ

ど高くなっている。「男性が家事や育児を行う能力を高めること」では女性の40歳代で39.0%、男性の20歳代で34.0%と最も高くなっている。(図8-3-1)

図8-3-2 固定的役割分担意識別  
男女とも社会のあらゆる分野に参画するために必要なこと



《ポイント》

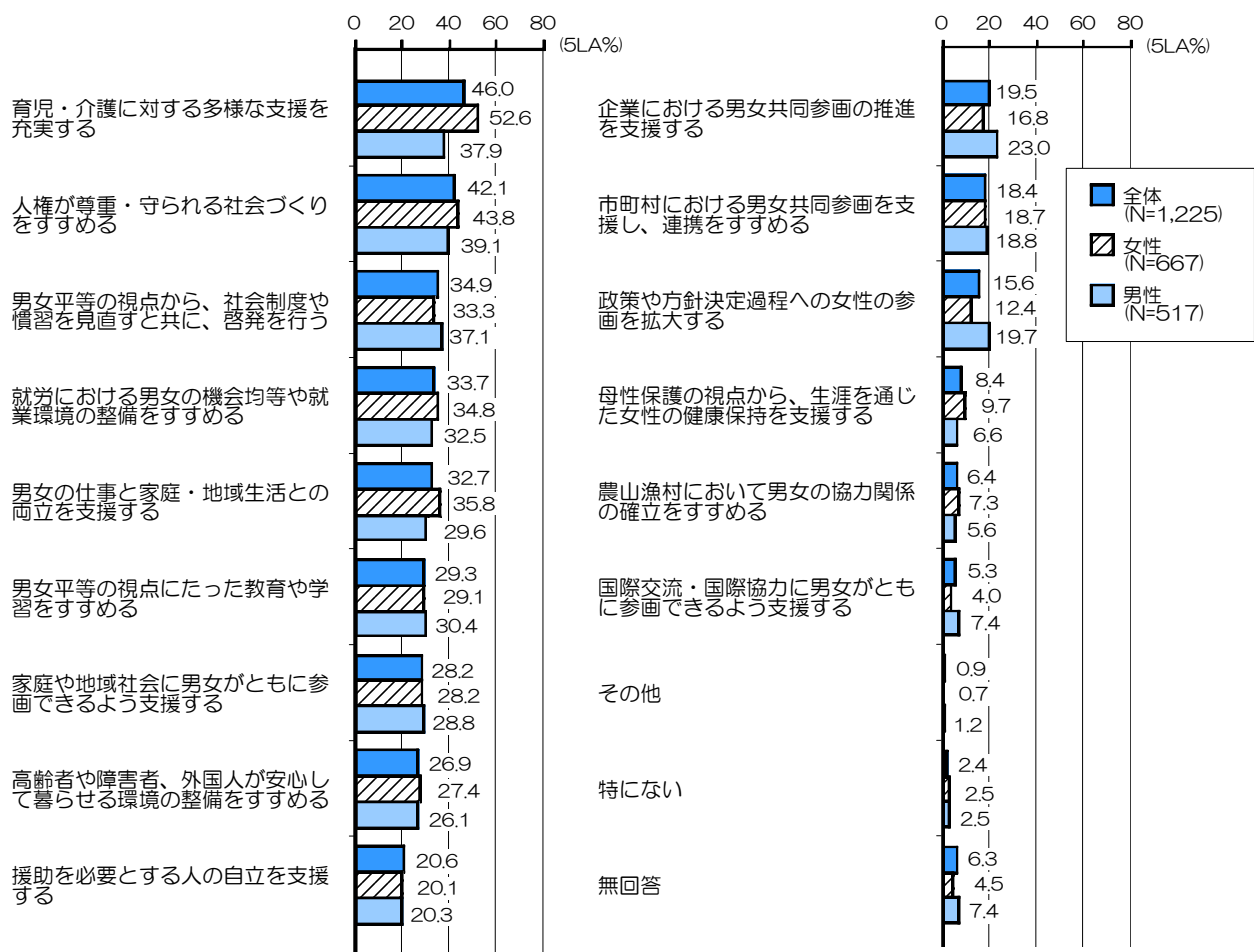
○「女性が経済力や知識を習得し、力をつけること」という意見は、女性では、固定的役割分担に否定的な人ほど割合が高いが、男性では逆に、肯定的意見の人の方が割合が高い。

固定的役割分担意識別にみると、「男性と女性の役割分担についての社会通念、しきたりを改めること」、「男性が家事や育児を行う能力を高めること」という意見の割合は男女とも、役割分担に否定的な人ほど高くなっているが、「女性が経済力をつけたり、知識の習得に努めるなど力をつけること」という意見は男性で役割分担に肯定的な人ほど割合は高くなっている。(図8-3-2)

#### 8-4 男女共同参画を推進するために力を入れるべきこと

問40 今後、和歌山県で男女共同参画を推進するために、県は特にどのようなことに力を入れて取り組むべきだと思いますか。(5つまでに○印)

図8-4 男女共同参画を推進するために力を入れるべきこと



#### 《ポイント》

- 「育児・介護に対する多様な支援を充実する」は女性で半数を超えている。
- 「人権が尊重・守られる社会づくりをすすめる」は男性で最も高い。

男女共同参画を推進するために力を入れるべきことについて、全体では「育児・介護に対する多様な支援を充実する」が46.0%と最も高く、次いで、「人権が尊重・守られる社会づくりをすすめる」が42.1%、「男女平等の視点から、社会制度や慣習を見直すと共に、啓発を行う」が34.9%の順となっている。

性別にみると、ほとんどの項目で男女差は小さいが、「育児・介護に対する多様な支援を充実する」で、女性が 52.6%と、男性に比べ 14.7 ポイント高く、逆に、「企業における男女共同参画の推進を支援する」では、男性が 23.0%と、女性に比べ 6.2 ポイント、「政策や方針決定過程への女性の参画を拡大する」でも男性が 19.7%と、女性に比べ、7.3 ポイント男性が高くなっている。(図 8-4)

表 8-4-1 性年齢別 男女共同参画を推進するために力を入れるべきこと

	全体	育児・介護に対する多様な支援を充実する	人権が尊重・守られる社会づくりをすすめる	男女平等の視点から、社会制度や慣習を見直すと共に、啓発を行う	男女の仕事と家庭・地域生活との両立を支援する	男女の立身と家庭・地域生活	男女平等の視点にたった教育	家庭や地域社会に女性が活躍するよう支援する	高齢者や障害者、外国人の整備を安	支援を必要とする人の自立を	企業における男女共同参画の推進を支援する	市町村における男女共同参画を支援し、連携をすすめる	政策や方針決定過程への女性の参画を拡大する	通じた女性の健康から、生涯を	関係の漁村にすすめ女性の協力	国際交流画・国際協力による支援	特にな
女性																	
20歳代	76	59.2	43.4	27.6	40.8	57.9	22.4	25.0	30.3	18.4	13.2	15.8	6.6	6.6	1.3	3.9	3.9
30歳代	117	65.8	36.8	21.4	35.0	43.6	21.4	31.6	16.2	24.8	16.2	18.8	14.5	12.8	2.6	3.4	3.4
40歳代	118	48.3	42.4	38.1	40.7	38.1	35.6	30.5	25.4	18.6	12.7	14.4	8.5	5.9	5.1	5.1	1.7
50歳代	125	58.4	44.8	33.6	44.0	28.0	36.0	27.2	19.2	24.0	25.6	16.8	16.0	6.4	8.0	4.8	2.4
60歳代	147	45.6	47.6	42.2	26.5	29.9	27.2	25.9	40.8	17.0	17.0	25.9	11.6	10.9	10.2	2.7	1.4
70歳以上	83	37.3	48.2	31.3	21.7	24.1	30.1	28.9	31.3	16.9	13.3	18.1	16.9	16.9	16.9	4.8	3.6
男性																	
20歳代	50	36.0	32.0	20.0	34.0	34.0	28.0	28.0	24.0	26.0	22.0	14.0	14.0	4.0	2.0	6.0	10.0
30歳代	61	47.5	41.0	29.5	34.4	41.0	24.6	23.0	9.8	27.9	26.2	19.7	14.8	6.6	4.9	9.8	0.0
40歳代	69	43.5	31.9	30.4	34.8	36.2	27.5	31.9	14.5	21.7	29.0	15.9	14.5	7.2	1.4	7.2	0.0
50歳代	98	39.8	44.9	37.8	36.7	34.7	33.7	31.6	27.6	25.5	19.4	25.5	25.5	6.1	7.1	5.1	2.0
60歳代	119	41.2	33.6	47.1	38.7	21.8	29.4	30.3	26.1	18.5	25.2	18.5	26.1	7.6	6.7	5.9	0.8
70歳以上	120	25.8	45.8	41.7	20.0	21.7	34.2	26.7	40.8	10.8	19.2	16.7	16.7	6.7	7.5	10.0	4.2

※「その他」、「無回答」は省略している

### 《ポイント》

- 「育児・介護に対する多様な支援を充実する」は女性で 20～50 歳代で高く、男性も 20～40 歳代で高い。
- 「人権が尊重・守られる社会づくりをすすめる」は女性で 60 歳代以上で高く、男性では 50 歳代と 70 歳代以上で高い。

性年齢別にみると、女性では 20～50 歳代では「育児・介護に対する多様な支援を充実する」が最も高く、60 歳代以上の年代では、「人権が尊重・守られる社会づくりをすすめる」が最も高くなっている。20～30 歳代では「男女の仕事と家庭・地域生活との両立を支援する」で割合が高くなっている。男性では 20～40 歳代で「育児・介護に対する多様な支援を充実する」が最も高く、50 歳代、70 歳以上では「人権が尊重・守られる社会づくりをすすめる」、60 歳代では「男女平等の視点から、社会制度や慣習を見直すと共に、啓発を行う」が最も高くなっている。20～40 歳代では「男女の仕事と家庭・地域生活との両立を支援する」も高くなっている。(表 8-4-1)

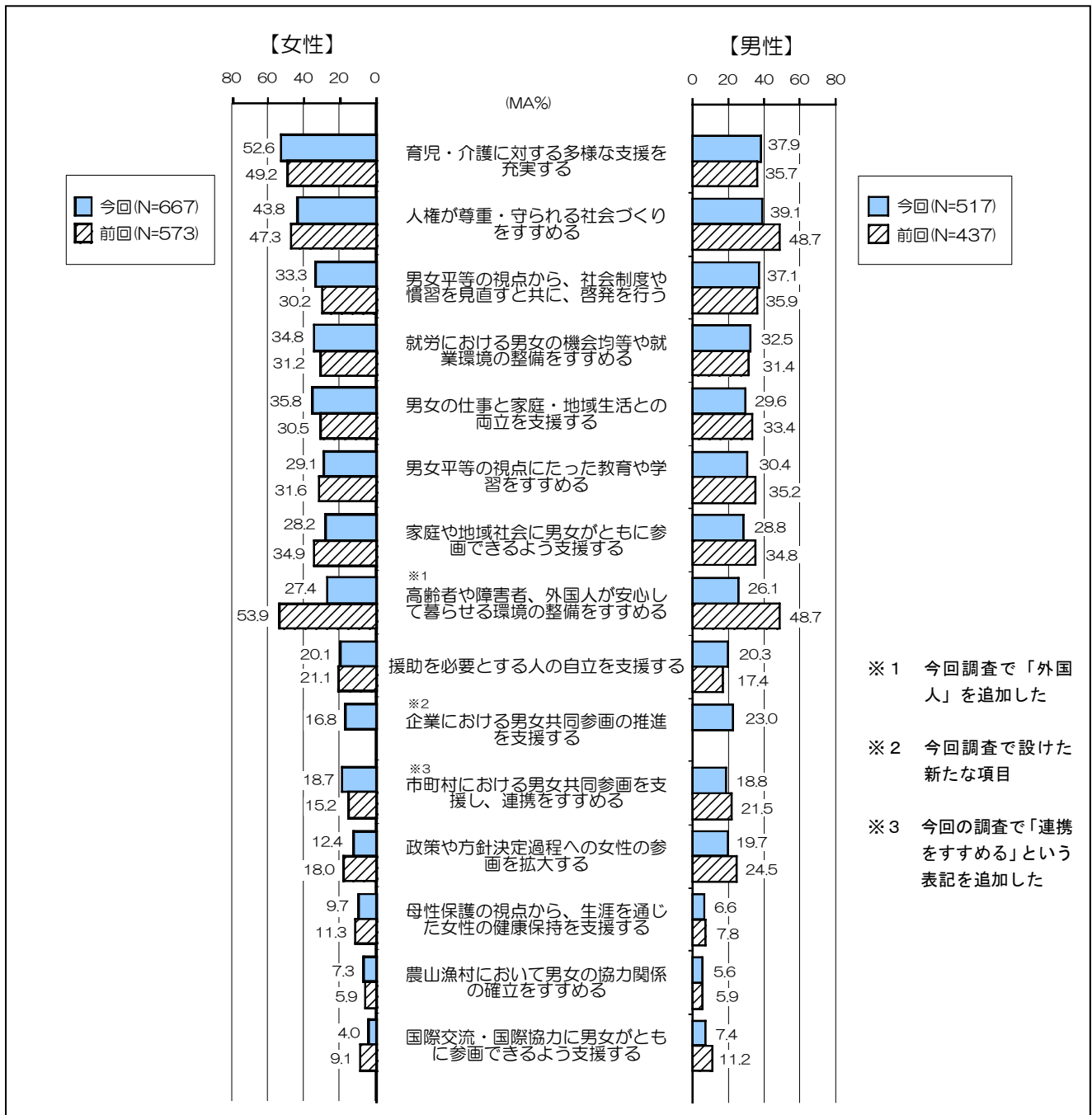








図8-4-4 前回調査比較 男女共同参画を推進するために力を入れるべきこと



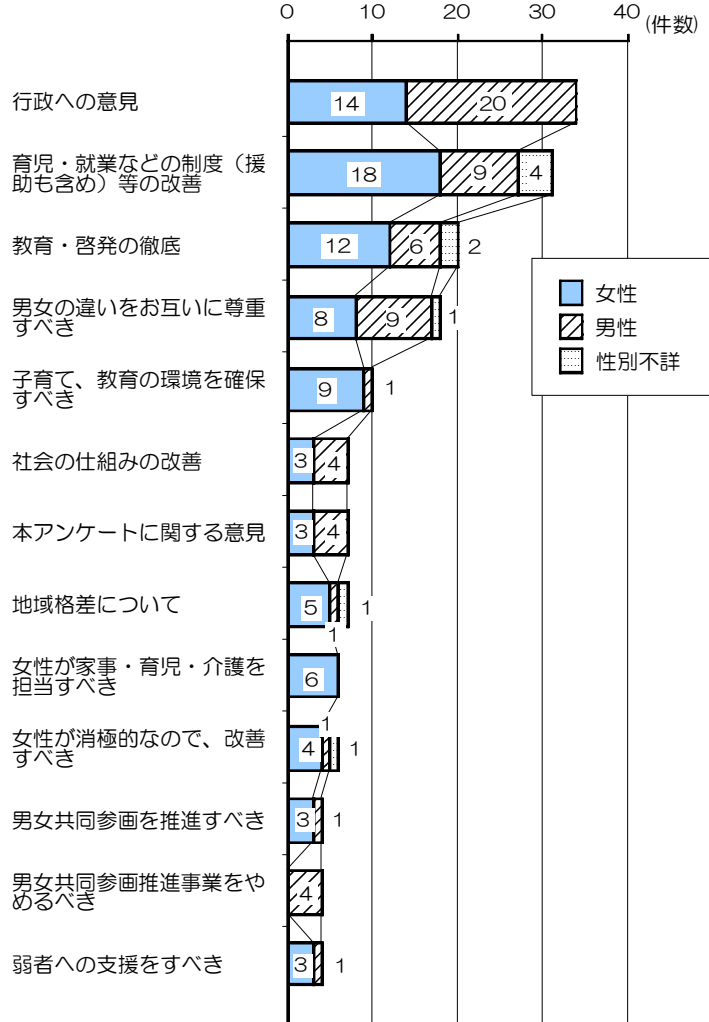
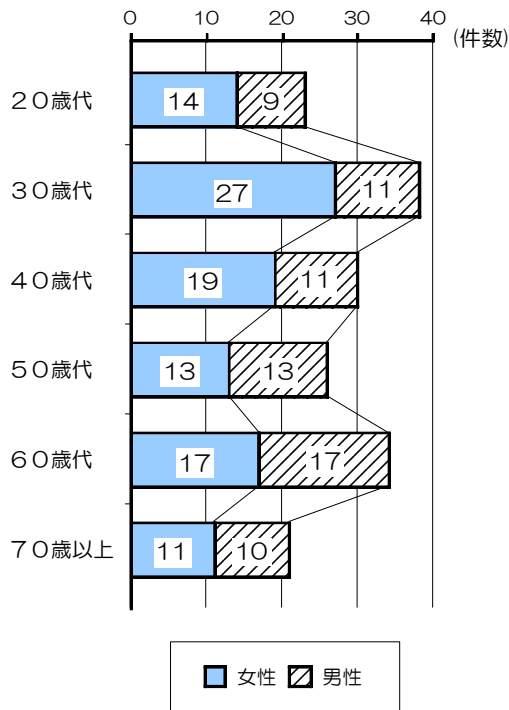
《ポイント》

○「育児・介護に対する多様な支援を充実する」、「男女平等の視点から慣習などを見直し啓発する」、「男女機会均等の就業環境の整備」と回答した人の割合は、男女とも前回よりも増加している。

前回調査と比較すると、男女とも「育児・介護に対する多様な支援を充実する」や「男女平等の視点から、社会制度や慣習を見直すと共に、啓発を行う」、「就労における男女の機会均等や就業環境の整備をすすめる」で前回よりも増加している。最も増加が大きいのは、女性では「男女の仕事と家庭・地域生活との両立を支援する」で5.3ポイント増加し35.8%、男性では「援助を必要とする人の自立を支援する」で2.9ポイント増加し20.3%となっている。(図8-4-4)

## 自由意見

問41 和歌山県で男女共同参画をすすめるにあたって、ご意見やご要望がありましたら、自由にご記入ください。



※記述内容の件数は延べ件数

自由意見欄に記入した人を性年齢別にみると、女性は30歳代で最も多く、男性は60歳代で最も多くなっている。主だった記述内容は、行政に対する要望や意見が最も多く、次いで、制度や施設面での改善要求や、教育や啓発の推進などがあげられている。特に、女性では「育児・就業などの制度改善」や「教育・啓発の徹底」、「子育ての環境の確保」などの意見が多い。